

14.4

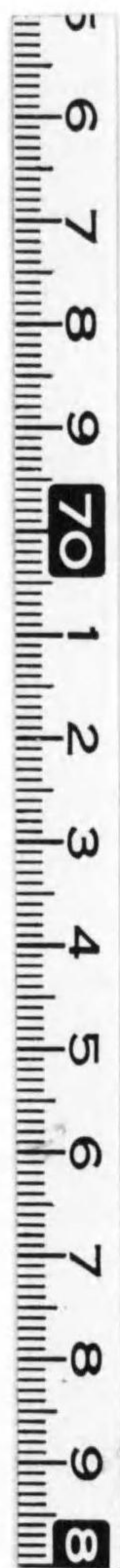
996

14.4-996



1200501209614

各國民間航空保護獎勵概況
昭和五年 遞信省航空局



始



昭和五年十一月

主要各國民間航空保護獎勵概況

逓信省航空局

144-996
~~604407~~
~~272-505~~

一 本書ハ歐米主要各國ニ於ケル民間航空保護獎勵ニ關
スル事項ヲ輯録シタルモノトス

一 本書ヲ印刷ニ附シタルハ閱覽及執務ノ便宜上筆寫ニ
代ヘタルニ止マリ之ヲ公刊スルノ趣旨ニアラス

昭和五年十一月

遞信省航空局

目次

第一 英吉利

一 定期航空ニ關スル保護獎勵

(一) 補助金支給方法.....一頁

(二) 定期航空會社ノ概況.....六

(三) 海外定期航空線路計畫.....六

航空工業ニ關スル保護獎勵

(一) 學術研究ニ關スル保護獎勵.....二

(二) 製作工業ニ關スル保護獎勵.....六

三 民間航空乘員養成ニ關スル保護獎勵

(一) 牛津及劍橋大學航空隊.....一七

(二) 輕飛行機俱樂部.....一九

(三) 國民飛行營業會社.....二二

目次

發行所寄贈本



四 各種航空團體ニ關スル保護獎勵……………三

五 英國民間航空豫算……………二四

第二 佛蘭西

一 定期航空ニ關スル保護獎勵……………二七

 (一) 補助金支給方法……………二七

 (二) 定期航空會社ノ概況……………三三

二 航空工業ニ關スル保護獎勵……………四〇

 (一) 學術研究ニ關スル保護獎勵……………四〇

 (二) 航空技術員ノ養成……………四〇

 (三) 製作工業ニ關スル保護獎勵……………四四

三 民間航空乘員養成ニ關スル保護獎勵……………四七

四 其ノ他ノ事項ニ關スル保護獎勵……………四八

五 佛國民間航空豫算……………五〇

第三 獨逸

一 定期航空ニ關スル保護獎勵……………五三

 (一) 航空行政官廳及法規ノ制定……………五三

 (二) 航空事業發達ノ沿革……………五三

 (三) 補助金支給方法……………五五

 (四) 定期航空會社ノ概況……………五五

二 航空工業ニ關スル保護獎勵……………六〇

 (一) 學術研究ニ關スル保護獎勵……………六一

 (二) 製作工業ニ關スル保護獎勵……………六一

三 民間航空乘員養成ニ關スル保護獎勵……………六二

四 各種航空團體ニ關スル保護獎勵……………六五

(一) 獨逸航空協會…………… 壹

(二) 航空思想ノ普及宣傳…………… 壹

五 獨逸民間航空豫算…………… 壹

第四 米 國

一 定期航空ニ關スル保護獎勵…………… 壹

二 航空工業ニ關スル保護獎勵…………… 壹

三 米國民間航空豫算…………… 壹

第五 伊 太 利

一 定期航空ニ關スル保護獎勵…………… 七

(一) 航空會社ニ對スル一般的保護及監督…………… 七

(二) 航空會社ニ對スル補助金支給方法及航空會社ノ現況…………… 七

二 航空工業ニ關スル保護獎勵…………… 九

三 民間航空乘員養成ニ關スル保護獎勵…………… 九

(一) 民間飛行學校ニ對スル補助…………… 九

(二) 輕飛行機俱樂部…………… 九

四 各種航空團體ニ關スル保護獎勵…………… 九

五 伊國民間航空豫算…………… 九

第六 露 西 亞

一 露國政府ノ民間航空團體設立援助…………… 九

二 「オソ、アビアヒム」協會…………… 九

三 「ドブロリヨト」協會…………… 一〇

四 「ウクライナ」航空協會…………… 一〇

五 「デルルフト」協會…………… 一〇

第七 和 蘭

一 K、L、M 會社ノ創立及政府ノ補助政策……………二五

二 K、L、M 會社事業ノ發達……………二六

三 K、N、I、L、M 會社……………二八

第八 白耳義

一 S、A、B、E、N、A 會社ノ創立及政府ノ補助政策……………三三

二 S、A、B、E、N、A 會社事業ノ發達……………三三

第一 英 吉 利

一、定期航空ニ關スル保護獎勵

(一)補助金支給方法

(イ)航空會社ニ對スル補助金支給方法ノ沿革

英國ニ於テハ一九一九年「ホルト、トーマス」航空輸送旅行會社及「ハンドレイ、ページ」輸送會社ノ二航空會社設立セラレ兩社ハ何レモ政府ヨリ何等ノ補助ヲ受クルコトナク倫敦、巴里間ノ定期航空事業ヲ經營シタルガ一九二〇年ニ至リ更ニ「インストン、エヤーライン」會社設立セララルニ及ヒ英國航空會社ハ三社ヲ算スルニ至レリ然ルニ之等英國會社ト同一航空路ヲ經營シツツアリタル佛國航空運送會社ハ政府ヨリノ補助金ヲ得テ其ノ運賃ノ五割ヲ値下シタル爲英國會社中斯業ノ先驅者タル「ホルト、トーマス」會社ハ解散ノ止ムナキニ至リ他ノ二會社モ亦財政上甚シキ苦境ニ陥リタリ次テ

一九二一年ニ入ルヤ佛國會社ハ自國政府ヨリ補助金ノ増額ヲ受ケ更ニ旅客運賃四割ノ値下ヲ斷行シタル爲殘存セル英國二會社モ亦其ノ競争ニ堪エス事業ヲ中止スルニ至レリ

然ルニ英國ノ輿論ハ之ヲ以テ國運ノ消長ニ關スル重大事件トシ政府ノ考慮ヲ促スコト急ナリシニ依リ當時ノ航空大臣「ウインストン、チャーチル」氏ハ直ニ委員會ヲ設ケ事態ヲ調査セシメ補助ノ必要ニシテ止ムヘカラサルモノナルコトヲ明カニシ前記「ハンドレイ、ページ」輸送會社及「インストン、エヤーライン」會社ニ對シ臨時補助金ヲ下附スルコトトシ以テ事業ノ復興ヲ可能ナラシメタリ

右臨時補助金ノ支給期間ハ初メ一九二一年三月十九日ヨリ向フ七ヶ月間ノ豫定ナリシカ其ノ後英國政府ハ之ヲ翌一九二二年三月末日迄延長シ兩社ニ對シ其ノ營業收入ノ一割ヲ補助シ且倫敦、巴里間ノ一航空毎ニ七十五磅ヲ支給シ更ニ所定期間内ニ於テ生シタル損失ハ之ヲ補償スルコトトセリ於茲兩社ハ辛シテ經營ヲ持續シ得ルニ至レリ

一九二二年三月末日ヲ以テ臨時補助金下付ノ期間滿了シタルカ政府ハ補助金支給繼續ノ緊要ナルヲ認メ同年四月一日ヨリ向フ六ヶ月間ニ亘ル第二期ノ補助ヲ爲スコトニ決定セリ

右補助ノ方法ハ政府ヨリ各會社ニ其ノ總收入ノ二割五分ニ該當スル補助金及旅客一人ニ付三磅、貨物一封度ニ付三片ノ補助金ヲ支給シ一定數ノ飛行機材ヲ無償ニテ交付シ且會社ノ支拂ヒタル保險料ノ五割ヲ補償スルモノナリ

一九二二年十月第二期 助期間滿了後モ政府ハ依然トシテ其ノ補助ヲ繼續シ尙內國會社相互間ノ競争ヲ避ケシムル爲各會社ニ經營線路ヲ協定セシメタリ其ノ後ハ著シキ變更ナク一九二四年三月末日ニ至レリ

英國政府ハ前記數年ニ亘ル航空會社補助ノ經驗ニ鑑ミ且民間航空補助調査委員會ノ報告ニ基キ國內各會社カ假令協定航空線路ヲ經營スルト雖之等ニ對シ各別ニ補助金ヲ支給スルヨリモ寧ロ一大會社ヲ設立セシメ之ニ民間航空事業ノ獨占權ヲ與フルト共ニ相當ノ補助金ヲ支給スルヲ得策トスル見地

ニ基キ茲ニ英帝國航空路會社ヲ設立セシムルニ至レリ

英帝國航空路會社ハ一九二四年四月一日當時航空事業ヲ經營シ居タル四會社即チ「ハンドレイ、ペーシ」輸送會社、「インストン、エアライン」會社、「ダイムラア、ハイア」會社及「ブリテイツシユ、マリオン、エアナヴィゲーション」會社ヲ合併シ資本金百萬磅ヲ以テ設立セラレタリ

(ロ) 英帝國航空路會社ニ對スル補助金支給方法

英國政府ハ前記ノ如ク一九二四年四月一日當時存續ノ四航空輸送會社ヲ合併シ資本金百萬磅ヲ以テ英帝國航空路會社ヲ設立セシメ而シテ之ニ對シ向フ十ヶ年間ニ亘リ合計百萬磅ノ補助金ヲ支給スルコトトシタルカ本支給方法ハ一九二九年ノ改正ニ至ル迄繼續セラレタリ左ニ其ノ概要ヲ擧ク

- (一) 一九二四年以後十ヶ年ニ亘ル政府ノ補助金總額ヲ百萬磅トシ最初四ヶ年ハ各年度十三萬七千磅ヲ次ノ六ヶ年ハ殘額ヲ遞減支給ス
- (二) 會社ハ前記四航空會社ノ經營線ヲ總テ繼承シ英國ニ於ケル民間航空輸送事業ノ獨占權ヲ有ス
- (三) 會社ハ政府ヨリ必要ナル飛行場勤務員ノ供給ヲ受クルヲ得且機材ノ補給修理及維持ノ爲前記補助金ノ外財政的援助ヲ受ク其ノ金額ハ平均一ヶ年二十三萬磅トス
- (四) 會社使用ノ飛行機材ニハ英國製品ヲ選ヒ從業員トシテハ英國人ノミヲ採用ス
- (五) 會社ハ每年少クトモ百萬哩ノ飛行ヲ遂行スヘキ義務ヲ負フ、本條項ハ後次ノ如ク修正セラレタリ

會社ハ每年少クトモ四億二千五百萬馬力哩ノ飛行ヲ遂行スヘキ義務ヲ負フ

(六) 會社ハ國家危急ノ際其ノ施設ヲ政府ノ用ニ供スヘキ義務ヲ負フ

(七) 政府支給ノ補助金ハ將來會社ノ利益金中ヨリ之ヲ償還スヘキモノトス

英國政府ハ一九二九年三月三十日英國、印度間ノ定期航空開始ニ伴ヒ右ノ補助契約ヲ廢棄シ新ニ有効期間十ケ年ノ契約ヲ締結シ一九二九年四月一日ヨリ之ヲ實施セリ

右新契約ノ概要左ノ如シ

(一) 一九二九年以後十ケ年間ニ亘ル政府ノ補助金總額ハ二百五十萬磅トシ其ノ各年度ノ割當金額左ノ如シ

最初ノ二ケ年	各年度	三三五、〇〇〇磅
次ノ四ケ年	各年度	三一〇、〇〇〇磅
第七年度		二三〇、〇〇〇磅
第八年度		一七〇、〇〇〇磅
第九年度		一二〇、〇〇〇磅
第十年度	(最終)	七〇、〇〇〇磅

各年度補助金額ハ(一)歐洲線路(二)英國、埃及間線路(三)埃及、印度間線路ニ對シ一定ノ割合ヲ以テ按

分セラル

(二) 政府ハ英國、印度間ノ定期航空ニ使用スル條件ヲ以テ「カルカッタ」型水上飛行機二機ヲ讓渡シ其ノ製作費相當額ヲ英國、埃及間線路ノ第一年度補助金ヨリ控除ス

(三) 航空郵便増料金ハ郵政長官ト協議ノ上決定セラルルモノナルカ大體英國、埃及、「イラク」、印度ノ各一區間一「オンス」ニ付三片、英國、「イラク」若クハ印度間一「オンス」ニ付六片ト定ム

(四) 歐洲線路ニ付テハ舊契約ニ基キ既ニ五ケ年間補助金ヲ受ケタルカ新契約ニ基キ更ニ今後十ケ年ニ亘リ逐年遞減ノ方法ニ依リ補助金ヲ受ク

(五) 新契約ニ依レハ會社ハ歐洲線路ニ於テハ從來通り毎日飛行ヲ爲シ一年間ニ之カ最低限四億二千五百萬馬力哩ヲ飛行スヘキ義務及英國、印度間線路ニ於テハ一九二九年四月一日以後毎週一往復ノ飛行ヲ遂行シ尙將來之ヲ毎週二往復ニ改ムヘキ義務ヲ負フ

(六) 機體ノ改良殊ニ飛行機ノ運轉費用ニ對スル其ノ貨客搭載量ノ比率ヲ増大セシムルコトノ緊要ナルニ鑑ミ航空大臣ノ別段ノ決定ナキ限り毎年前記補助金ノ二割五分以上ノ金額ヲ機材ノ減價償却費ニ充當スルコトヲ要ス

右條件ニ依ルトキハ會社ハ契約期間中ニ於テ現在使用中ノ航空機ノ大部分ヲ新式機ト取換フルコトヲ得又右期間經過後ハ優良機材ノ使用ニ依リ減價償却費ヲ輕減スルコトヲ得ヘク且輸送貨客ノ

自然増加ノ趨勢ト相俟ツテ會社ノ收支相償フニ至リ遂ニハ政府ノ補助ヲ必要トセサルニ至ルヘシ
 (七)舊契約ニ依レハ拂込資本ニ對スル一割ノ配當ヲナシ尙剩餘アルトキハ補助金ノ償却ノ爲其ノ三分
 ノ一ヲ政府ニ返納スルコトヲ要シタルカ新契約ニ依レハ政府ハ會社ヨリ額面一磅ノ利益後受株二
 萬五千株ヲ受ケ契約期間中ハ各年度利益金中ヨリ普通株ニ對スル一割ノ配當額ヲ控除セル剩餘利
 益金ノ半額ノ配當ヲ受ケ期間滿了後ハ普通ノ利益配當ヲ受ケ政府ハ之ヲ補助金ノ償還ニ當ツルモ
 ノトス

(八)大臣ハ會社取締役二名ヲ指名スルノ權限ヲ有ス

(二)定期航空會社ノ概況

英帝國航空路會社ハ舊契約ニ依レハ補助契約ノ殘期間五ケ年ニ補助金殘額六十萬磅弱ノ支給ヲ受クル
 ニ過キサリシカ新契約ニ依レハ今後十ケ年ニ亘リ補助金總額二百五十萬磅ノ支給ヲ受クルコトナ
 リ極メテ有利ナル條件ヲ得タルヲ以テ會社ハ其ノ使用機材ノ改善ヲ爲シテ以テ輸送能率ヲ上ケ又一方
 其ノ經營線路ヲ英本國ヨリ印度「デリー」ニ迄延長スル等英國會社固有ノ堅實ナル發展ノ歩武ヲ大イ
 ニ進メツツアリ同社ハ該英印線ヲ更ニ濠洲ニ迄達セシメント計畫中ナルカ他方倫敦、「ケーフタウン」
 間ノ定期航空路開設計畫ヲモ樹立セリ後者ニ就テハ本國政府並ニ關係各殖民地政府ノ賛意及援助ヲ得
 「コーバム、ブラックバイン」會社トノ協定ノ下ニ着々其ノ準備ヲ進メツツアリ一九三一年ノ春迄ニハ

全線開通スルモノノ如シ

一九二四年ノ創立以來目覺シキ發展ヲ遂ケ來タリシ英帝國航空路會社ノ今後ノ活躍又大ニ刮目スヘキ
 モノアルヘシト想像セラルルカ本會社ノ創立以來ノ發展ノ經過ヲ數字のニ示セハ左ノ如シ

英帝國航空路會社歐洲線航空輸送統計表

年 度	航空哩數	馬力哩數	旅客哩數	貨物噸哩數	旅客噸哩數	總噸哩數	平均荷重 (對噸)
一九二四年 自四月至七月	六九九,九四〇	三六五,六〇四,三八五	二,四八一,九九三	一一九,〇六六	二二一,五八三	三五〇,六四九	一,一一〇
一九二五年	八〇五,三〇〇	四二一,一五四,五七五	二,六四五,二七五	一四七,五五五	二二六,一八五	三八三,七五〇	一,〇七〇
一九二六年	七三三,九六〇	五四九,一三九,四四〇	三,七四六,〇九五	一五九,〇二九	三三四,五三三	四九三,五六一	一,五〇〇
一九二七年	六二四,六五五	五四三,五五三,三九五	四,〇二七,八六〇	一三七,〇〇七	三五九,六三〇	四九六,六三七	一,八一〇
一九二八年	七九三,三五五	七六四,一四二,三六〇	六,〇三三,六〇〇	一八四,二八九	五三七,七三三	七三二,〇一一	二,〇四〇
一九二九年	七七八,二六〇	八四〇,七六一,四八五	六,二一四,八五五	二〇四,一六六	五四六,八六一	七五二,〇二七	二,一六〇
合 計	四,四四四,五〇三	五,〇四三,七六,六六〇	二五,〇四八,六七七	九六一,一三三	二二,三六,五三三	三,一九七,六四五	一,六二〇

同社倫敦—埃及線航空輸送統計表

年 度	航空哩數	馬力哩數	旅客哩數	貨物噸哩數	旅客噸哩數	總噸哩數	平均荷重 (對噸)
一九二九年 自四月 至七月	一五,九三七	二二,三五二,一三〇	三六二,一七三	五九,一〇四	三五,七三三	九四,八三七	一,三六〇

同社埃及—印度線航空輸送統計表

年 度	航空哩數	馬力哩數	旅客哩數	貨物噸哩數	旅客噸哩數	總噸哩數	平均荷重 (對噸)
一九二六年 自十二月 至八月	一〇四,二九七	一三三,九七八,六七五	二六七,六四〇	一六,一七五	二六,八八三	四三,〇五六	九二〇
一九二七年	二七,九三五	一五〇,三六七,四五	四五三,六〇五	三一,一五四	四五,五三三	七六,七二七	一,四六〇
一九二八年	二七,九三五	一五〇,三六七,四五	四五三,六〇五	三一,一五四	四五,五三三	七六,七二七	一,四六〇
一九二九年	三三,一七五	二九五,四九一,四五〇	六三九,六三五	八二,三三九	六六,二五八	一四八,四八七	一,四四〇

英國政府ノ補助ヲ脱シ獨立經營ノ域ニ達スルヲ理想トセル同社カ如何ニ其ノ點ニ於テ理想ニ接近セルヤハ最近ノ調査ニ係ル左ノ歐洲主要各國トノ比較表ニ依リ明ナルヘシ

(イ) 航空營業收入總額ニ對スル政府補助金割合比較

佛 國 七七%
獨 國 六八%

英 國 五〇%

(ロ) 飛行一噸哩ニ對スル經費比較

佛 國 一六志九片
獨 國 九志四片
英 國 六志九片

尙同社ノ飛行カ安全ニシテ信賴スヘキ點ニ於テ他ノ何レノ國ニ比スルモ優ル所アルハ周知ノ事實ニシテ即チ同社ニ對スル飛行機ノ航空其ノ他ノ保險ノ保險料カ其ノ原價ノ三「パーセント」ヲ殆ト超ユルコトナキ程度ニ在ルハ之レカ顯著ナル例證ニシテ他國同業者ノ絶對ニ追隨シ得サル所ナリト稱セラレ最ニ後ニ同社普通株「一磅」ノ現市價並ニ其ノ創立以來ノ高低ヲ示シ其ノ營利的事業トシテ株式市場ニ有スル地位ヲ觀測セハ次ノ如シ

年 度	最 高	最 低
一九二五年	六志〇片	一志〇片
一九二六年	八志十片	一志三片
一九二七年	七志一片	六片

一九二八年	二七志〇片	四志六片
一九二九年	三三志〇片	二〇志〇片

※一九二五年ノ分ハ十志拂込其ノ以後ノ分ハ十五志拂込ナリ

此等ノ株式ハ現在ニ於テハ全額拂込済ナルカ其ノ市場最近ノ相場ハ中値二十六志前後、一九二九年ハ百磅ニ付五磅十五志ノ配當ヲナセルカ一九三〇年ニハ一割ノ配當可能ナルヘシト豫想セラル

(三) 海外定期航空線路計畫

(イ) 英國、印度、濠洲間ノ航空線路

英國印度間ノ定期航空線路ハ一九二八年五月一日英國政府ト英帝國航空路會社トノ間ニ新ニ締結セラレタル補助契約ニ基キテ開設セラレ一九二九年四月一日以降倫敦、「カラチ」間ニ於テ每週一往復ノ定期航空ヲ實施セルカ其ノ成績極メテ良好ナリ

「カラチ」以東「デリー」、「カルカッタ」及「ラングーン」ニ至ル航空線路ハ印度政府ノ管理經營ニ屬セシメラレタルカ既ニ同政府ハ「カラチ」、「デリー」間ニ於テ英帝國航空路會社ヨリ賃借セル航空機ヲ以テ定期航空ヲ實施シ居レリ之ヲ更ニ前記「カルカッタ」、「ラングーン」迄延長セントスル計畫ハ目下印度政府ニ於テ審議中ナリ

英濠航空線路ノ最終區間タル「ラングーン」、濠洲間ノ定期航空實施計畫ニ就キテハ英帝國航空路會社ハ既ニ航空大臣ノ認可ヲ得タルヲ以テ更ニ同航空線路沿線ノ各國政府ノ贊同援助ヲ得タル上遅クトモ一九三一年中ニハ之ヲ開設實施スルモノノ如シ

(ロ) 阿弗利加線路

阿弗利加ニ於ケル英國ノ航空事業ハ從來僅ニ南阿聯邦ノ「ケープタウン」―「ヨハネスブルク」線及「ポート、エリザベス」―「ダーバン」線並ニ東阿弗利加ニ於ケル「キスム」―「カルツーム」間ノ空軍ニ依リ不定期航空線アルノミニ過キサリシカ數年前ヨリ英本國ト南阿弗利加トノ連絡大航空線路計畫樹立セラルルニ至レリ固ヨリ本線路ハ阿弗利加内地ニ於ケル廣茫タル領域ノ開發及殖民ノ促進ニ重要ナル關係ヲ有スルノミナラス軍事上將又經濟上重大ナル意義ヲ有スルモノナルカ近來白耳義、佛蘭西各國ノ航空會社カ夫々政府ノ援助ノ下ニ阿弗利加航空線路ノ開拓ヲ計畫シ着々ソノ準備ヲ進メツツアルニ依リ之カ開設ハ英國ニトリ緊要欠ク可カラサルモノタルニ至レリ

英國政府ハ幾多ノ大飛行ノ經驗並ニ實地踏査ニ依リ航空線路、著陸地等ノ設置ニ關シ完全ナル資料ヲ蒐集シ得タル結果今後倫敦、「ケープタウン」間航空輸送事業經營ノ出願アリテ其經營ノ可能性ヲ認メタル時ハ南阿政府ノ贊同ヲ得タル上直ニ之カ許可ヲ與フル旨發表シタリ
茲ニ於テ阿弗利加航空界ニ活躍セル「コーバム、ブラックバイン」會社ハ該阿弗利加縱斷線路ノ試験

飛行ヲ遂ケ之カ經營ヲ企圖シタリシモ英本國政府ヨリノ補助ハ英帝國航空路會社ノ優先權ニ妨ケラレ又該線路沿線ノ各英國殖民地政府ヨリノ補助ハ本國政府ノ之ニ對スル補助金支給ヲ條件トセルニ妨ケラレ其ノ何レヨリモ補助金ヲ受クルコトヲ得サリシヲ以テ該企圖モ遂ニ一時頓挫スルノ已ムナキニ至レリ然ルニ一九三〇年ニ至リ該線路ト關係最モ深キ南阿聯邦政府ハ本國政府トノ數次ノ交渉ノ結果遂ニ該縱斷航空線路ノ設置經營ニ對シ爾後五ケ年ニ亘リ必要ナル補助金ヲ下付シ且其ノ他ノ協力援助ヲ惜マサル旨發表シ次イテ該線路沿線ノ「スイダン」、「ケニヤ」、「タンガニカ」、「ウガンダ」、「北部」ロデシイヤ」及南部「ロデシイヤ」等ノ諸政府モ亦同シク補助金下付並ニ協力援助ノ保證ヲ與フル旨發表シタリ他方「コーバム、ブラツクバイン」會社ト英帝國航空路會社トノ協定モ結ハレタレハ茲ニ前記諸政府ヲ代表セル航空省及「コーバム、ブラツクバイン」會社ヲ代表セル英帝國航空路會社トノ契約案起草セラレ大体ニ於テ關係者ノ承認スル所トナリタリ

斯クシテ本大航空線路モ漸ク實現ノ運トナリ其ノ第一期計畫タル埃及ノ「アレキサンドリヤ」ヨリ「ニアンザ」ニ至ル區間ハ一九三〇年迄ニ定期航空輸送開始セラルヘク「ケープタウン」ニ至ル全通輸送ハ遅クトモ一九三一年春迄ニ實施セラルルモノノ如シ

二、航空工業ニ關スル保護獎勵

(一) 學術研究ニ關スル保護獎勵

英國政府ハ次ノ諸機關ヲ設置シ自ラ航空學術研究ニ努ムルト共ニ又民間ニ對シテモ之カ指導獎勵ニ盡瘁シ居レリ

(イ) 國立航空機研究所

國立航空機研究所ハ飛行機模型ノ製作、抗力及飛行機試驗並ニ發動機ノ製作及性能試驗等各種ノ研究實驗ヲ爲シ航空調査委員會等ト連絡ヲ保チ軍事並ニ民間航空ノ研究ヲナス

航空省ハ之カ爲メ一九二八年度ニ於テ三十八萬磅、一九二九年度ニ於テ二十九萬九千磅ヲ其ノ航空豫算中ニ計上シタリ

(ロ) 航空省實驗所 (Air ministry Laboratory)

航空省實驗所ハ帝國科學工科大学内ニアリテ同大學ニ於ケル一般科目ヲ修了シタル者ヲシテ更ニ一年間航空科ノ專攻ヲ行フニ當リ學科ト共ニ基礎的實驗ヲ爲サシメ希望ニ依レハ尙一年乃至二年間實驗ニ携ハルヲ得シメ以テ有爲ノ技師ヲ養成スルコトヲ目的トスルモノナリ

之カ爲航空省ハ一九二八年度ニ於テ四千八百六十磅、一九二九年度ニ於テ五千五百四十磅ヲ其ノ航空豫算中ニ計上シタリ

(ハ) 航空調査委員會

航空調査委員會ハ航空大臣ニ隸屬スル諮問機關ニシテ其ノ組織及職務左ノ如シ

組 織

本委員會ハ左ノ委員ヨリ成ル

航空省ヨリ四名、航空機製作業者ヨリ二名、理化學工業調査會ヨリ二名、理化學者ヨリ五名、理科大學ヨリ二名

主ナル職務

- (1) 航空機ノ構造、航空科學及工業ニ關スル意見ヲ申進スルコト
- (2) 航空大臣ノ指示スル調査及實驗ニ關スル作業ノ企畫及監督ヲ爲スコト
- (3) 航空學校ノ振興ヲ圖ルコト
- (4) 科學上ノ研究ノ發表又ハ他ノ調査會ト協力シ以テ國內航空工業ノ發展ヲ助成スルコト

(ニ) 航空研究委員會

本會ハ航空省ニ依リ任命セラレタル委員會ニシテ各方面ニ亙ル權威ヲ集メ次ノ如キ小委員會ヲ設ク

- (一) 氣体力學
- (二) 合金
- (三) 發動機
- (四) 事故調査
- (五) 航空船
- (六) 航空輸送
- (七) 壓縮風洞
- (八) 彈力及歪
- (九) 振動
- (十) 音波光波

等ノ干涉

- (十一) 大風洞
- (十二) 荷重系數
- (十三) 水上飛行機
- (十四) 安定
- (十五) 風式氣球
- (十六) 工業トノ關係
- (十七) 國產機及其ノ羽翼、

各小委員會ハ屢々其ノ研究結果ヲ報告發表セリ

(ニ) 國立理化學研究所 (The National Physical Laboratory)

本所ハ八部ニ分タレ其一ニ航空部ヲ有ス其ノ研究ハ全ク航空省ノ管轄外ニアリテ直接實用ニ關係ナキ基礎的學理ノ實驗研究ヲ行フヲ以テ其ノ目的トス從ツテ設備トシテハ四個ノ風洞及一個ノ實驗用水渠ヲ有スルニ過キス

(ニ) 共同研究部 (Coordinating Research Board)

本部ハ一九二〇年ニ設立セラレタルモノニシテ其ノ目的トスル所ハ

- (一) 政府ノ施設ニ係ル各種研究機關ノ研究科目及其ノ研究結果ヲ相互ニ報告シ以テ研究ノ重複ノ弊ヲ防キ
 - (二) 差支ヘナキ限リ諸研究結果ヲ政府外ノ關係者ニ發表シ
 - (三) 政府諸機關ノ要求ニ依ル特殊研究ノ爲メ必要ナル諸般ノ準備ヲ爲スニアリ
- (ト) 水上機研究所、飛行機及裝備研究所

前者ハ「フレクストウ」後者ハ「マートルシヤム」ニアリ共ニ航空省ノ設置スル所ニシテ新ニ設計作製セラレタル水上又ハ陸上飛行機ノ實地試驗ヲ行フ

主トシテ軍用機ニ關スルモノナレトモ民間飛行機ニ對シテモ二十五磅ノ試験科ヲ徵收シテ其ノ性能試験ヲ行フ

航空省ハ前者ニ對シテハ一九二八年度ニ於テ三千三百七十磅、一九二九年度ニ於テ三千五百磅、後者ニ對シテハ一九二八年度ニ於テ八萬七千三百九十磅、一九二九年度ニ於テハ七萬六千五百六十磅

ヲ其ノ航空豫算中ニ計上シタリ

(二) 製作工業ニ關スル保護獎勵

(イ) 航空機及發動機ノ製作獎勵方法

英國政府ハ製作工業ノ保護獎勵ノ意味ヲ含メ優良ナル航空機及發動機ノ買上ヲ爲シ居レリ
即チ其ノ必要ト認メタル航空機又ハ發動機ノ用途及性能ニ應シ豫メ研究ヲ重ネタル結果夫々適當ナル會社ニ注文ヲ爲スモノノ如シ

一九二八年度及一九二九年度豫算ニ於テ之カ爲政府ノ計上シタル金額左ノ如シ

種 類	一 九 二 八 年 度	一 九 二 九 年 度
飛 行 機	二、九五五、〇〇〇磅	三、三七五、〇〇〇磅
發 動 機	一、五三三、〇〇〇磅	一、九一〇、〇〇〇磅
豫 備 飛 行 機	七〇〇、〇〇〇磅	六二〇、〇〇〇磅
豫 備 發 動 機	五〇〇、〇〇〇磅	四二四、〇〇〇磅

(ロ) 航空船建造獎勵方法

英國政府ハ大航空船ニ依ル各殖民地聯絡ノ計畫ヲ樹立シ之カ爲メ使用スヘキ航空船一〇〇號及一〇一號ヲ建造スルニ當リ民間ノ航空船製作工業ノ保護獎勵ノ一助トシテ前者一〇〇號ノ建造ヲ航空船保證會社ニ請負ハシメタリ

同航空船ハ一九二九年未政府ニ引渡サレタルカ之ニ對シ政府カ同會社ニ拂タル金額ハ一九一九年度迄ノ總計二十七萬磅ニシテ此ノ外一九三〇年度豫算中ヨリモ臨時費トシテ多少支拂ヒタルモノノ如シ尙同會社ハ商業用トシテ右航空船ヲ低廉ニ買戻シ得ル權利ヲ有セリ

(ハ) 新式航空機ノ設計試作ノ獎勵方法

英國政府ハ軍事上又ハ商業上有効ナル新式航空機ノ設計試作ヲ獎勵スル方針ノ下ニ從來ヨリ發明家ニ相當ノ賞金ヲ與ヘ又ハ發明權ノ買上ヲ爲シ居レリ之ニ要スル經費トシテ航空省ハ一九二八年度及一九二九年度豫算ニ夫々五萬磅ヲ計上シタリ

三、民間航空乘員養成ニ關スル保護獎勵

(一) 牛津及劍橋大學航空隊

牛津、劍橋兩大學航空隊ハ一九二五年大學當局ノ熱烈ナル賛意ヲ得航空省ニ依リ創設セラレタリ
其ノ主タル目的ハ飛行及之ニ關聯セル諸問題ニ對スル眞摯ナル興味ヲ増進シ且職業トシテ航空ニ携ハル者英國空軍ニ籍ヲ置カムトスル者ノミナラス國家竝ニ民間航空ノ發展ニ密接ナル關係ヲ有スヘキ職

業ニ就カントスル者等ニ航空科學及實地ノ指導教練ヲ爲スニ有リ

(イ) 設備

航空機、發動機、無線電信、航空寫眞、航空機用武器、航空用機器、高度測定裝置等技術的及軍事的方面ニ迄及フ各種ノ研究設備ヲ有シ劍橋大學航空隊ハ更ニ風洞、「タンク」及實驗室ノ設備ヲ有ス

講堂讀書室並ニ航空圖書館等ハ云フ迄モ無シ

該航空隊ノ練習機ハ最新型ノモノニシテ空軍軍人ニヨリ維持管理セラル

(ロ) 教授科目

教授科目ハ理論及實地ノ兩方面ニ亘ル左ノ科目ヨリ成ル

航空術及航空原理、航空機ノ構造及手入、發動機ノ構造、手入及運轉、航空機操縱術

右以外ノ事項ニ關スル教育ハ聽講希望者ニ對シテ行ハレ尙又來朝ノ權威者ノ講演會ヲ開催ス

(ハ) 航空練習

航空練習ハ複操縱裝置航空機ニ依リ行ハレ航空機操縱術ノ實地的訓練トシテ野外飛行ヲ行フ

有資格者ニ對シテハ單獨飛行許容セラル

會員ハ通常二ケ年間同隊ニ於テ教授ヲ受クルトキハ單獨操縱ノ正式資格ヲ得尙特別優秀ナルモノハ

一ケ年ニシテ同資格ヲ受クルコトヲ得ヘシ

(ニ) 學位

兩大學ノ航空課程ハ之ヲ學位課程ニ入レス但シ劍橋大學ニ於テハ機械學優等試驗ノ一部又ハ普通工學學位課程ノ一トシテ之ヲ選擇シ得ルコトトセリ

現在兩大學航空隊ノ有スル會員ハ夫々七十五名ニシテ政府ハ之カ保護獎勵ノ爲メ空軍ヨリ指導教官ヲ派遣シ且一九二八年度ニ於テ三千六百磅、一九二九年度ニ於テ四千二百磅ノ補助金ヲ其ノ豫算中ニ計上シタリ

(二) 輕飛行機俱樂部

英國政府ハ航空思想ノ普及、航空機操縱術ノ教授ヲ目的トシテ設立セラレタル輕飛行機俱樂部ヲ以テ國家有事ノ際空軍ニ編入シ得ヘキ民間操縱士ヲ養成スルノ機關ト見做シ之ニ對シ多額ノ補助金ヲ支給シ且各種ノ援助ヲ與ヘツツアリ

右俱樂部ノ組織、操縱士養成成績及之ニ對スル政府ノ補助金支給制度左ノ如シ

(イ) 組織

一九二四年八月航空大臣ハ一定數ノ輕飛行機俱樂部ヲ設立シ之ニ對シ二ケ年ヲ一期トシテ財政上ノ援助ヲ與フヘキ旨發表シタリ茲ニ所謂輕飛行機俱樂部トハ右決定ニ基キテ設立セラレタルモノヲ指

ス該決定ニ依レハ俱樂部ハ創立ニ際シ公認輕飛行機購入費トシテ創立補助金ヲ尙二ケ年間維持費及材料消耗品購入費トシテ補助金ヲ受ケ之ニ對シ俱樂部ハ少クトモ創立補助金ト同額ノ出資ヲ爲スコトヲ要シ且飛行場及其ノ他ノ設備並ニ補助金ニヨル購入品ノ維持管理ヲ爲スヘキ義務ヲ負フ

輕飛行機俱樂部ハ公認ノ操縦教官及地上機關士ヲ任用スルコトヲ要ス

俱樂部員ハ英國人タルヲ以テ足リ其ノ性、年齢、職業其ノ他ニ關シ何等制限無シ

(ロ) 補助金支給制度

一九二四年輕飛行機俱樂部創設ノ際定メラレタル補助金支給制度ハ一九二七年次ノ如ク改メラレタリ

(一) 「A」「B」兩號免狀ノ下付アル毎ニ夫々五十磅ヲ支給ス

(二) 現會員ニシテ正規ノ免狀ヲ所有スル者ニ對シ十磅尙二十時間ニ達スル迄飛行一時間ニ付三十志ヲ加ヘ支給ス故ニ一會員ニ對スル一ケ年ノ最高支給額ハ四十磅トナル

(三) 各俱樂部ニ支給スル最高年額ハ二千磅トス

右ノ制度ハ一九三〇年ノ夏迄ノ期限ナリシヲ以テ既ニ廢止セラレタルカ航空省ハ各俱樂部ノ現状及各俱樂部關係者ノ要望ヲ考慮シ其ノ補助金支給繼續ノ必要ヲ認メ左ノ如キ補助金支給制度ヲ採用シタリ

本制度ハ次ニ述フル國民飛行營業會社ニ對スルモノト同様ニシテ

(一) 俱樂部員ノ操縦士免狀(自家用又ハ旅客貨物輸送用タルヲ問ハス)ノ交付ヲ受ケ又ハ其ノ更新ヲ受クル毎ニ十磅ヲ支給ス

(二) 補助金總額ハ各飛行機俱樂部及國民飛行營業會社ニ對スルモノヲ合シテ二萬磅トス

(三) 空軍操縦士タル會員ニ對シテハ其ノ現役タルト退役タルトヲ問ハス補助金ヲ支給セス

(ハ) 養成成績

現在ノ輕飛行機俱樂部ノ總數ハ十三ニシテ其ノ會員總數ハ一九二八年末ニ於テハ三、二八八名、一九二九年末ニ於テハ三、六四八名ナリキ民間操縦士免狀ヲ獲得セル者ハ一九二九年末ニ於テ七五〇名ニシテ一九二八年末ニ比シ六割ノ増加ヲ示セリ而シテ右七五〇名中六九五名ハ俱樂部機ニヨリテ免狀ヲ得タルモノナリ

(三) 國民飛行營業會社

國民飛行營業會社ハ一般ノ私飛行家並ニ各輕飛行機俱樂部員ノ使用ニ供スル目的ヲ以テ全国各地ニ亘リテ飛行場ヲ經營シ各種ノ飛行營業ヲ爲シ且自ラ各地ニ飛行機俱樂部ヲ設置センカ爲ニ設立セラレタルモノナリ

會社ハ其ノ第一期計畫トシテ地方團體ト協力シ二十ヶ所ノ飛行場及百ヶ所ノ不時着陸場ヲ建設スルニ

決シ既ニ「ハル」、「ノッテインガム」、「リード」、「ストーク、オン、トレント」、「ミッドルズブルー」ノ各地ニ飛行場ヲ設置シタリ

又會社ハ「ハンワース」俱樂部(倫敦)、「ハル」飛行俱樂部ヲ設置シ從來政府ノ補助金ヲ受ケシ「ヨークシヤ」飛行俱樂部(リーズ)、「ノッテインガム」飛行俱樂部(ノッテインガム)及政府ノ補助ヲ受ケサリシ「バークス、バックスク、アンド、オクソン」飛行俱樂部(リーディング)ヲ繼承管理スルコトナレリ

會社ハ右諸飛行俱樂部ニ付政府ヨリ次ノ方法ニヨリ補助金ヲ支給セララルモノ如シ
即チ最初三ケ年間ニ最高額一萬五千磅ヲ養成操縦士一人ニ付十磅ノ割合ヲ以テ支給シ次ノ七ケ年間ニ同シ割當ヲ以テ七千磅ヲ支給ス

一九二九年末ニ於ケル會社所屬飛行俱樂部會員總數ハ一、〇〇八名ニシテ會社所有機ノ飛行總時間ハ三千百十時間ナリキ

四、各種航空團體ニ關スル保護獎勵

イ、民間飛行學校ニ對スル飛行將校養成ノ委託

航空大臣ハ次ノ諸會社ヲシテ飛行學校ヲ設立セシメ一九二三年以來空軍豫備將校ノ養成ヲ委託シ之ニ對シ相當ノ養成費ヲ支給シ各種ノ便宜ヲ與ヘ且其ノ經營上ノ援助ヲナシ居レリ
陸上機操縦士ノ養成ヲ委託セルモノ

(一)「バードモリア」會社

(二)「プリストル」飛行機會社

(三)「ド、ハビランド」航空機會社

(四)「アームストロング、ウキットウオース」會社

水上機及二發動機付飛行機操縦士ノ養成ヲ委託セルモノ

(五)北洋航空及陸上輸送會社

一九二六年度ニ於ケル右五社ノ養成成績ハ全科程修了者總數三百六十二名ニシテ「ド、ハビランド」及「プリストル」兩社ハ初等科ノ教授ヲ爲シ同期間ニ於テ其ノ修了者三十一名ヲ出セリ

其後各社ノ養成數ハ逐次増加シツツアリ

一九二九年度豫算ニ於テ航空省ハ右五社ニ對シ其ノ養成費トシテ十六萬九千磅ヲ計上セリ

ロ、航空博覽會

英國政府ハ前ニ一九二三年七月ヨリ八月ニ亘リ瑞典「ゲツテ、バープ」ニ開催セラレタル萬國航空博覽會ヘノ出品ヲ促ス爲最高九千五百磅ノ範圍内ニテ出品ニ要スル經費ノ半額ヲ補助シタルカ爾來機會アル毎ニ獎勵援助ヲ爲シ最近ニ於テハ一九二九年七月倫敦ニ於テ開催セラレタル英國航空機製作業者協會

(Society of British Aircraft Constructors)及發動機製作業者及販賣者協會(Society of Motor Manufacturers

空博覽會ニ對シ航空省ハ援助ヲ與ヘタルカ之カ經費トシテ一九二九年度航空豫算中ニ七千磅ヲ計上セリ

& Traders)ノ主催ニ係ル國際航空博覽會及一九二九年七月「オリンピア」ニ於テ開催セラレタル航空博覽會ニ對シ航空省ハ援助ヲ與ヘタルカ之カ經費トシテ一九二九年度航空豫算中ニ七千磅ヲ計上セ

五、英國民間航空豫算

英國民間航空豫算總額及航空補助獎勵金豫算額

年 度	區 分	金 額	邦 貨 換 算 額
一九二〇年	民間航空豫算總額	四二九,七二九 ^磅	一四,一九五,四四四 ^圓
一九二一年	民間航空豫算總額	一,〇六〇,四一一	一〇,三九一,一八〇
	內 補助獎勵金	六〇,〇〇〇	五八五,七六〇
一九二二年	民間航空豫算總額	四五〇,五二二	四,三九八,三四九
	內 補助獎勵金	一〇七,〇〇〇	一,〇一〇,九四一
一九二三年	民間航空豫算總額	三二一,八九一	三,一四三,六三二
	內 補助獎勵金	二〇五,〇〇〇	二,〇〇一,四一五
一九二四年	民間航空豫算總額	三六〇,〇八六	三,七四九,八三二

一九二五年	民間航空豫算總額	一三七,〇〇〇	一,三三七,五二一
	內 補助獎勵金	三三五,五六六	三,七六四,四七三
一九二六年	民間航空豫算總額	一五九,〇〇〇	一,五五三,二一七
	不明	四六一,〇〇〇	四,五二〇,五〇六
一九二七年	民間航空豫算總額	四六四,〇〇〇	四,五三〇,〇三二
	內 補助獎勵金	一八〇,〇〇〇	一,七五六,三四〇
一九二八年	民間航空豫算總額	四一五,〇〇〇	四,〇五一,六四五
	內 補助獎勵金	二六六,〇〇〇	二,五九六,九五八
一九二九年	民間航空豫算總額	四五〇,〇〇〇	四,三九三,三五〇
	內 補助獎勵金	三七三,〇〇〇	三,六四一,五九九
一九三〇年	民間航空豫算總額	五〇〇,〇〇〇	四,八八一,五〇〇
	內 補助獎勵金	四四八,〇〇〇	四,三七三,八二四

第
二
佛
蘭
西

一、定期航空ニ關スル保護獎勵

(一) 補助金支給方法

(イ) 歐洲大戰後ノ佛國政府ノ定期航空補助政策

歐洲大戰終熄スルヤ佛國政府ハ戰時中ニ進歩シタル航空技術ヲ平時ニ於テ維持シ且之カ發達ヲ圖ルコト緊要ナリト認メ一九一九年度豫算ニ三千七百萬法ノ民間航空ニ關スル經費ヲ計上シ其ノ中千八百萬法ヲ民間航空補助ノ爲ニ支出シタルカ右民間航空補助金ハ必スシモ定期航空ノミニ之ヲ支給シタルモノニ非ス純然タル私ノ飛行ニ付テハ飛行距離補助金ヲ、不定期航空輸送物ニ付テハ其ノ重量ニ應スル補助金ヲ支給セル外軍用ニ供シ得ヘキ優秀ナル飛行機ニ付テハ其ノ購買價格ノ二割五分ヲ補助スルコトトセリ

右補助金支給ニ關スル條件左ノ如シ

- (一) 飛行機及附屬品ハ佛國人ノ所有スルモノナルコト
- (二) 事業ノ運用管理モ亦佛國人之ヲ行フモノナルコト
- (三) 操縦ニ従事スル操縦士モ亦全部佛國人ナルコト

次テ一九二〇年ニ至リ政府ハ一月三十日附ノ大統領令ヲ以テ民間航空ニ關スル主管ヲ陸軍省ヨリ土木省ニ移シ之ト同時ニ新ニ定期航空補助制度ヲ定メタルカ從來ノ制度ト略同様ニシテ只其ノ相違ス

ル所ハ飛行郵便物百瓦以下ニ付八法、之ヲ超ユル 二十瓦又ハ其ノ端數毎ニ一法六十參ノ増料金ヲ徵收シ増料金ハ全部之ヲ受命者ニ支給スルコトトセリ

一九二一年度ニ於テハ飛行機購買補助金ヲ飛行機價格ノ五割トシタル外略前年ト同様ナリ

一九二二年度及一九二三年度ニ於テハ飛行機購買補助金ノ外航空時間及航空距離ニ應シテ支給スル補助金及輸送シタル旅客及貨物ノ數量ニ應シテ支給スル補助金ヲ設ケタリ

一九二四年ニ至リ又其ノ補助方法ニ改正ヲ加ヘ購買補助金及輸送貨客ノ數量ト飛行距離トニ應シテ支給スル飛行距離補助金ノ二種トシ飛行機ノ速力ハ之ヲ考慮ニ入レサルコトトセリ但シ會社ノ營業上ノ收支計算ニ缺損ヲ生シタル場合ハ當該年度ノ支給補助金ノ五割以内ニ限リ政府ニ於テ之ヲ補償スルコトトシ以テ斯業發達ノ徹底ヲ期セリ

(ロ) 一九二五年度ヨリ一九二八年度迄ノ佛國政府ノ定期航空補助政策

一九二五年度ニ於テハ從來定期航空會社ニ對シ支給シ居タル飛行機購買補助金ヲ廢止シ飛行補助金及飛行補助割増金ヲ支給スルコトトセリ即チ飛行補助金ハ政府、會社間ノ契約ニ定ムル要件ニ從ヒ規定ノ區間ヲ正規ニ飛行シタル場合飛行距離ニ應シ之ヲ支給シ尙政府ノ認ムル補充航空ニ對シテモ亦之ヲ支給セリ而シテ飛行補助金ノ率ハ飛行距離一籽毎ニ有效積載量百瓦ニ付之ヲ左ノ如ク定メタリ

最初ノ四百瓦ニ對シテ

一、七五法ノ五倍

四百瓦以上ノ百瓦ニ對シテハ

一、二五法ノ五倍

右係數五ハ各會社ノ經營線路毎ニ契約ニ於テ之ヲ定メ五十瓦ニ滿タサル百瓦ノ端數ハ之ヲ切棄テ五十瓦以上ハ之ヲ百瓦トシテ計算セリ

飛行補助割増金ハ會社ノ政府ニ提出スヘキ營業報告中ニ借越額アル場合飛行補助金ト同一條件ノ下ニ會社ニ之ヲ支給スルモノニシテ其ノ率ハ營業報告ヲ均衡セシムル如ク之ヲ定メタリ然レトモ右割増飛行補助金額ハ飛行補助金額ノ五割ヲ超ユルコトヲ得ス且飛行補助金及割増飛行補助金ノ總額ハ當該航空會社ニ對スル補助金經費總額ヲ超ユルコトヲ得サルモノトセリ

右ノ外佛國政府ハ基礎ノ確定シ良好ナル成績ヲ舉クルニ至レル「エール、ユニオン」會社經營ノ倫敦、巴里間航空線路ニ對シテハ一九二五年ヨリ從來ノ毎年度契約ニ代フルニ十箇年契約ヲ締結シテ右會社ヲ補助スルコトトセリ而シテ其ノ補助金支給方法ハ前記毎年度契約ノ場合ト殆ト同様ナリ

斯テ一九二六年度一九二七年度及一九二八年度ニ於テハ大體右支給方法ニ基キテ補助金ヲ支給セリ

(ハ) 一九二九年度以降ノ佛國政府ノ定期航空會社補助政策

一九二九年度以降ニ於テハ從來ノ如ク飛行補助金及必要アラハ飛行補助割増補助金ヲ支給スルモ飛行補助金ノ支給方法ハ專ラ飛行籽距離ト飛行機ノ有效積載量トニ基クコトナク飛行籽距離ト飛行機ノ性能トニ基クコトトセリ

右一籽飛行補助金ハ一ハ發動機ノ總馬力數ニ比例シテ變化シ他ノ一ハ機體ノ性能ニ從ヒ變化スル左ノ二元(原則)ヲ以テ計算セラル

第一元 P^1 ハ左ノ割合ヲ以テ計算セラル

二百五十馬力迄ニ付テハ

$$K \times 0.28 \times \frac{\text{總馬力數(滿數ヲ算入セズ)}}{10}$$

二百五十馬力以上八百馬力迄ノ追加ニ付テハ

$$P^1 = K \times 0.15 \times \frac{\text{總馬力數}-250}{10}$$

八百馬力以上ノ追加ニ付テハ

$$P^1 = K \times 0.10 \times \frac{\text{總馬力數}-800}{10}$$

Kハ各航空線路ニ付其ノ契約ニ於テ之ヲ定ム

第二元 P^2 ハ左ノ通り定メラル

單發動機付陸上飛行機ニ付テハ

$$P^2 = P^1 \times 0.70 \left(\frac{A}{450} - 1 \right)$$

第一種多發動機付陸上飛行機ニ付テハ

$$P^2 = P^1 \times 0.70 \left(\frac{A}{400} - 1 \right)$$

單發動機付水上機ニ付テハ

$$P^2 = P^1 \times 0.70 \left(\frac{A}{300} - 1 \right)$$

第一種多發動機付水上飛行機ニ付テハ

$$P^2 = P^1 \times 0.70 \left(\frac{A}{250} - 1 \right)$$

右算式中ノAハ左式ヲ以テ之ヲ求ム

$$A = \frac{(P^1 - P_m + 225)(V - 50)}{W}$$

P^1 ハ飛行機ノ堪航證明書記載ノ全備重量

P_m ハ飛行機ノ堪航證明書記載ノ自重

n ハ飛行機ノ旅客座席數

Vハ發動機ノ利用回轉數ヲ以テスル地上附近ニ於ケル水平速度

Wハ發動機ノ總公稱馬力數

飛行補助割増金ハ從來ノ如ク共通指令書ニ定ムル會社ノ政府ニ提出スヘキ營業報告中ニ借越額アル場合飛行補助金ト同一條件ノ下ニ會社ニ之ヲ支給スルモノニシテ其ノ率ハ營業報告ヲ均衡セシムル如ク之ヲ定ム然レトモ其ノ飛行補助割増金額ハ飛行補助金額ノ五割ヲ超過スルコトヲ得ス又飛行補助金及飛行補助割増金ノ總額ハ當該航空會社ニ對スル豫算ニ定ムル補償金經費總額ヲ超ユルコトヲ

得サルモノトセリ

(二) 定期航空會社ノ概況

現在佛蘭西ニ於テ定期航空事業ヲ經營セル航空會社六アリ其ノ概況左ノ如シ

(イ)「エール、ユニオン」會社(Compagnie Air-Union)

佛蘭西最初ノ航空會社ハ世界大戰直後飛行機製作業者「ルイ、ブレゲ」氏ノ創設セル航空運送會社(Compagnie des Messageries Aeriennes)ニシテ同社ハ初メ英國ノ「ハンドレー、ペーヂ」會社ト協同シテ倫敦、巴里間ノ旅客運送ヲ營ミタリシカ佛國政府ヨリ補助金ヲ支給セラルルニ及ヒ英國ノ右會社ト分立セリ次テ一九二〇年ニハ大航空運送會社(Compagnie des grands Express Aériens)創設セラレ同會社ハ前記航空運送會社ト同一航空路ニ於テ航空輸送ヲ行ヒ互ニ競争ヲ爲シタルモ一九二三年ニ至リ兩會社ハ合併シテ「エール、ユニオン」會社ノ名稱ノ下ニ四百七十萬法ノ資本金ヲ以テ同航空線路ニ於テ引續キ貨客及郵便物ノ運送ヲ爲シ其ノ後設立セラレタル英帝國航空路會社ト其ノ雄ヲ競ヒツツアリシカ一九二六年五月ニ至リ巴里—里昂—「マルセイユ」ノ航空線路ヲ開設シテ其ノ俊翔ヲ地中海ニ伸ヘ又同時ニ里昂ヨリ瑞西ノ「ジュネーブ」ニ至ル航空路ヲ開設セリ尙同年七月ニハ從來「アンチーブ」、「アジャクシオ」間ノ航空線路ヲ經營シ居タル水上航空會社(Compagnie Aéro-Naval)ヲ併合シ資本金ヲ六百二十萬法ニ増額シ「アンチーブ」、「アジャクシオ」間ノ航空ヲ其ノ手ニ收メ一九二六

年十一月ニハ此ノ航空路ヲ「アジャクシオ」ヨリ佛領北部阿弗利加ノ「チュニス」迄延長シ一九二九年四月ニハ此ノ航空路ノ起點タル「アンチーブ」ヲ「マルセイユ」ニ移シ愈々北ハ倫敦ヨリ南ハ「チュニス」ニ至ル南北縱貫航空線路ヲ完成シ又同時ニ巴里、倫敦間ノ夜間定期航空ヲ開始シ現在ハ專ラ貨物及郵便物ノミヲ輸送シ居ルモ將來ハ旅客ノ輸送ヲモ爲ス趣ニシテ旅客輸送開始ノ曉ニ於テハ二大都市間ノ交通ニ一大寄與ヲ爲スニ至ルヘシ現在本會社ハ千四百萬法ノ資本金ヲ有ス尙本會社ハ北部阿弗利加ニ於テ將來「チュニス」ヲ起點トシテ西ハ「アルジェリ」迄東ハ埃及迄其ノ航空線路ヲ延長スル計畫ヲ有ス

(ロ) 空中輸送會社(Société Générale de Transports Aériens)

本會社ハ一九二三年ノ創設ニ係リ現在一千萬法ノ資本金ヲ有ス其ノ創設當初ヨリ巴里—「ブラッセル」—「アムステルダム」ノ航空路ヲ經營シ和蘭ノK、L、M航空會社ト輸贏ヲ争ヒツツアリシカ一九二六年五月巴里—伯林線ヲ開設シ爾來漸次其ノ翼ヲ中歐ニ延ヘ「ブラッセル」—「アントワープ」—「ロッテルダム」—「アムステルダム」線、「ブラッセル」—「オステンド」線等ノ支線ノ外巴里—「ケルン」—「ドルトムント」—「ハンブルヒ」—「コペンハーゲン」—「マルメ」線ヲ開設シ白耳義、和、獨逸及「スカンデナヴィア」地方ニ大ニ其ノ驥足ヲ伸ヘタリ尙本會社ハ巴里、伯林線ヲ「ワルソー」ヲ經テ露西亞及「バルチック」諸國迄又巴里、「マルメ」線ヲ北ハ

「オスロー」迄東ハ「ストックホルム」迄延長スル計畫ヲ有ス

(ハ) 國際航空會社 (Compagnie Internationale de Navigation Aérienne)

本會社ハ一九二〇年ノ創設ニ係リ一九二四年十二月迄ハ佛羅航空會社 (Compagnie Franco-Romaine) ト稱シ最初巴里「ストラスブル」ト「ブライグ」間ノ航空線路ヲ開設シタルカ爾來漸次其ノ航空路ヲ延長シテ巴里、君府間、「ブライグ」、「ワルソー」間ノ航空路ヲ經營スルニ至レリ而シテ一九二五年ニハ獨逸版圖上ノ飛行ヲ禁止セラレ種々經營上ノ困難ニ遭遇シタルモ一九二六年五月二十六日佛獨航空協定ノ締結ヲ見ルニ及ヒ獨逸國版圖上ノ飛行ヲ許可セラレ現在ニ於テハ「ニルンベルヒ」及「ブレスロー」ニ着陸シ居レリ

本會社ハ佛國ニ於ケル他ノ航空會社ト異リ數多ノ國ノ版圖上ヲ通過スル航空路ヲ經營シ居ル關係上被飛行國ト長期間ノ契約ヲ結ヒテ各國政府ヨリ補助金其ノ他ノ特權ヲ賦與セラレ居レリ

本會社ハ八百二十五萬法ノ資本金ヲ擁ス其ノ中六割一分ハ佛國側、一割九分ハ「ルーマニア」國側、二割ハ「チェコスロヴァキア」國側ノ出資ナリ

尙本會社ハ將來巴里、君府線ヲ「アンゴラ」、「アレポ」ヲ經テ「バグダッド」迄延長スル計畫ヲ有ス

(ニ) 航空郵便會社 (Compagnie Générale Aériopostale)

本會社ハ元航空興業會社 (Compagnie Générale d'Entreprises Aéronautiques) ト稱シ一九一八年ノ創



設ニ係ル一九一九年「ツールーズ」、「ラバ」間ノ航空線路ヲ開設シテ以來漸次其ノ航空線路ヲ延長シ一九二五年ニハ其ノ線路ヲ「ラバ」ヨリ「ダカール」迄延長シ主トシテ佛領北部阿弗利加、佛本國間ノ郵便物ノ輸送ヲ爲シ居タルカ一九二八年二月現在ノ航空郵便會社ト其ノ社名ヲ改稱シ、數年來研究ヲ重ネ居タル佛本國、南米間ノ郵便物輸送航空路ヲ開設スルニ至レリ此ノ航空線路ハ「ダカール」ヨリ南大西洋ヲ横斷シテ「アルゼンチン」國ノ「ブエノス、アイレス」ニ至ルモノニシテ安全ニ大西洋ヲ飛過スルコトヲ得ル優秀ナル飛行機ノ出現スル迄最初「サン、ルイ」、「ダカール」間三、四六〇浬ノ區間ハ高速汽船ヲ以テ中繼セリ又同年十月ニハ「マルセイユ」、「アルジェリヤ」間ノ郵便物輸送航空路ヲ開設セリ此ノ航空線路ハ地中海ヲ横斷シテ北部阿弗利加ニ至ルモノニシテ實ニ將來開設セムトスル佛本國、「マダカスカル」島間ノ計畫中ノ線路ノ基底トナルモノナリ尙一九二九年五月ニハ「巴里」ト「ボルドー」ト「ビアリッツ」線及「ボルドー」ト「ツールーズ」線ヲ開設シ南米線ヲ首都巴里ニ聯絡セシメ又南米線ヲ智利ノ「サンチャゴ」迄延長セリ一九三〇年ニハ「巴里」ト「ボルドー」ト「ビアリッツ」線ヲ西班牙ノ首府「マドリッド」迄延長シ又大西洋横斷區間タル「ダカール」、「ナタル」間ニハ「イスバノスキザ」六百馬力付「ラテ」二八—三型單葉水上機ヲ就航セシメ南米線ヲ完成セリ本會社ハ三千萬法ノ資本金ヲ有ス

尙本會社ハ南米線ヲ一方「ナタル」ヨリ佛領「ギヤナ」及「アンチル」諸島ヲ經テ紐育迄又他方智利ノ

「サンチャゴ」ヨリ太平洋岸ニ沿ヒ「ポリヴィア」國及「ベル」國迄延長スル計畫ヲ有ス

(ホ)「エール、ユニオン、リオーニユ、ドリアン」會社(Compagnie Air-Union Lignes d'Orient)

本會社ハ一九二七年ノ創設ニ係リ六百四十萬法ノ資本金ヲ擁ス先年行ヒタル佛本國、佛領「シリア」間ノ試験航空ニ基キ一九二九年六月「マルセイユ」、「ベイルート」間ノ定期航空ヲ開始シ一九三〇年一月之ヲ「バグダッド」迄延長セリ同航空線路ハ實ニ佛本國ヲ發シ佛領「シリア」、佛領印度支那ヲ經由シテ極東方面ニ向フ計畫中ノ航空路ノ第一期計畫ニ屬スルモノナリ

(ク)「エール、アジエ」會社(Compagnie Air-Asie)

本會社ハ五百萬法ノ資本金ヲ有シ佛領印度支那西貢ニ本社ヲ有ス本會社ノ目的ハ佛本國、極東間ノ航空線路ノ一部タル定期航空線路ヲ佛領印度支那ヲ中心トシテ極東方面ニ開設セムトスルニ在リ一九二九年ニ於テ既ニ西貢、「バンコック」間ノ郵便物航送試験飛行ヲ行ヒタルカ一九三一年一月ヨリ愈々西貢―「バンコック」―「蘭貢」―「カルカッタ」間ニ於テ二週一回ノ郵便物航送定期飛行ヲ開始スル豫定ナリト謂フ

(ト)「トランスアフリケンヌ」會社(Compagnie Transafricaine)

本會社ハ六百萬法ノ資本金ヲ有シ其ノ目的ハ「アフリカ」ヲ縦斷シ佛本國、「マダカスカル」島間ノ定期航空線路ノ開設ニ在リ一九二九年十二月及一九三〇年一月前後二回ニ亘リ「アルジェール」、「フ

オール、ラミー」間ノ試験飛行ヲ行ヒ目下「アフリカ」ニ於ケル航空線路ノ開設準備中ナリ

(チ)佛蘭西航空會社(Compagnie Aérienne Française)

本會社ハ本來空中作業會社ニシテ空中寫眞撮影等ノ業務ニ従事シ居タリシカ一九二九年ヨリ「マルセイユ」―「ニース」線、「カレール」―「ドーヴァー」線、「バリ」―「シエルブル」線及「バリ」―「ル、アール」線ノ定期又ハ不定期輸送業務ヲ開始シタルカ一九三〇年ニ於テハ「マルセイユ」―「ニース」線ヲ雙方ニ延長シテ「ボルドー」―「マルセイユ」―「ニース」―「ジエノア」線ト爲シ又別ニ「ボルドー」―「ジエノア」線ヲ開設シ一切此等ノ線ニ於テ定期的ニ輸送ヲ行フニ至レリ

本本會社ノ經營線ハ大西洋横斷ノ船舶ニ直接聯絡スルモノニシテ大型、小型ノ旅客機ヲ用意シ一機全體ノ料金ヲ定メ家族的觀光旅客ノ遊覽ニ供シ居レリ

尙本會社ハ佛國政府ヨリ何等補助金ノ支給ヲ受ケス

佛國政府ハ一九二九年ニ於テ從來雜然ト發達シ來レル各航空會社ヲ組織的統制ノ下ニ合同セシメムトスル計畫ヲ樹テ目下之カ實施ニ努メツツアリ而シテ此ノ計畫ニ依レハ「エール、ユニオン」會社ハ「エール、ユニオン、リオーニユ、ドリアン」會社ト合同シテ佛本國、極東間ノ計畫航空線路ノ經營ニ當リ國際航空會社ハ空中輸送會社ト合同シテ中部及東部歐羅巴方面ノ航空線路ヲ經營シ又航空郵便會社ハ「トランスアフリケンヌ」航空會社ト合同シテ「アフリカ」及南北亞米利加方面ノ航空線路ヲ經營スル豫定ナリ

佛國定期航空會社別各年航空輸送成績

(一) 「エール、ユニオン」會社

年次	飛行距離	旅客(區間)	貨物(區間)	郵便物(區間)
一九一九年	一二五,〇八九 <small>軒</small>	一一三 <small>人</small>	六,二六二 <small>噸</small>	二二四 <small>噸</small>
一九二〇年	一五六,五七五	三六	一八,八五九	三三
一九二一年	五一九,六三八	二,七六二	五一,九〇二	一,一〇七
一九二二年	五七,一八七	二,五六六	二四六,八四三	一,四七〇
一九二三年	五三四,七五七	三,七二二	五〇六,五三六	一,四一八
一九二四年	四八五,七七二	五,六三三	四四三,七一	八三
一九二五年	六二七,八九〇	七,七〇八	五一四,九二六	一,二五二
一九二六年	八九四,〇三七	八,〇四七	五〇一,三五三	四,〇六四
一九二七年	一,一七四,六〇一	八,九六二	三五六,四九八	四,四五八
一九二八年	一,三三六,六七七	一,一五七二	四五六,一八	五,七六五
一九二九年	一,八三六,九〇一	二,五五六二	七四五,三三六	九,七二八

(二) 空中輸送會社

年次	飛行距離	旅客(區間)	貨物(區間)	郵便物(區間)
一九二一年	一五〇,五九九 <small>軒</small>	一,三五八 <small>人</small>	一四,三三三 <small>噸</small>	三三 <small>噸</small>
一九二二年	一三六,二二〇	一,二七二	四一,九七四	五二
一九二三年	一五〇,五九九	一,四〇九	六九,六一	六四九
一九二四年	一三六,二二〇	一,三六三	二八,八七二	六五
一九二五年	三二一,一三九	三,〇八一	一〇五,七六一	九六四
一九二六年	三九二,〇六一	二,九八一	一二六,一三三	一,四九七
一九二七年	五四三,二五一	四,七三六	一六四,〇〇六	二,七二〇
一九二八年	八〇九,五三四	四,六三五	二四三,八九九	二,九二〇
一九二九年	一,〇九四,四三七	五,九七六	三三八,六六九	六,五二九

(三) 國際航空會社

年次	飛行距離	旅客(區間)	貨物(區間)	郵便物(區間)
一九二〇年	五四,二四 <small>軒</small>	七 <small>人</small>	七五 <small>噸</small>	八二 <small>噸</small>

總佛國定期航空會社各年別航空輸送成績

年次	飛行距離	旅客(區間)	貨物(區間)	郵便物(區間)
一九一九年	二五,七四 <small>里</small>	五九 <small>人</small>	八四〇 <small>里</small>	九三九 <small>里</small>

一九二二年	一,一〇二,九六一	三,三三八	一六〇,七六二
一九二三年	一,六〇六,九五七	四,五五七	三九,五六六
一九二四年	一,七八五,八九三	七,二〇七	五二四,九三二
一九二五年	二,四〇三,二八六	五,九六三	八八三,六五四
一九二六年	二,四六九,三三九	四,五六六	五七六,九三四
一九二七年	二,四九七,二二三	四,一七九	四一六,〇一五
一九二八年	二,九六一,五〇〇	一,一二五	一一〇,九〇六
一九二九年	三,五〇九,四一〇	一,三〇八	一一三,三三八

(四) 航空郵便會社

年次	飛行距離	旅客(區間)	貨物(區間)	郵便物(區間)
一九一九年	一〇七,四七〇 <small>里</small>	七 <small>人</small>		七二〇 <small>里</small>
一九二〇年	三六〇,〇四九	六四		一五,一四二
一九二一年	六九二,四二五	一,二四七		三〇,六四二

一九二二年	六〇七,四三三	二,〇二九	五七,九三〇	二,八一九
一九二三年	八三六,〇〇一	一,七五八	七六,六九四	四,九八四
一九二四年	一,二四九,三七六	二,九八〇	二三四,五三〇	七,四五五
一九二五年	一,二七三,七六	二,二四〇	三八,三二八	六,九四三
一九二六年	一,三〇八,六九五	二,四七六	二四九,五七	四,五七七
一九二七年	一,四五二,九三〇	三,二四七	三六〇,九五二	一三,四一八
一九二八年	一,七七一,五二	三,六八八	六三,七〇八	八,五八四
一九二九年	二,二四二,二二五	二,三七六	四八,五七三	一〇,七六四
一九三〇年	二,六六九,〇三六	二,九四三	四八五,六二〇	一四,〇六四

年次	飛行距離 (杆)	飛行機數	操縱士數
一九二〇年	八五〇,〇〇〇	一七一	七,〇三六
一九二一年	二,三五〇,〇〇〇	一〇,六一九	二六,一八九〇
一九二二年	二,八〇〇,〇〇〇	九五〇三	五五,六三七〇
一九二三年	三,三八七,一九五	一,六三八	九六,九〇一
一九二四年	三,六四七,八六六	一六,七九	八七,五九一
一九二五年	四,七二,八八八	一九,六六八	九四九,一三五
一九二六年	五,三〇,五八五	一八,八六一	一,〇六七,八九九
一九二七年	六,〇四三,六九三	二一,五五五	一,二一〇,〇五一
一九二八年	七,二九七,〇〇四	一九,六九八	一,一五六,四一七
一九二九年	九,四三五,四〇四	三六,八四	一,六〇八,四二一

總佛國定期航空會社飛行距離並飛行機及操縱士數累年比較

年次	飛行距離 (杆)	飛行機數	操縱士數
一九二〇年	八五〇,〇〇〇	一八五	七三
一九二一年	二,三五〇,〇〇〇	二八五	九〇
一九二二年	二,八〇〇,〇〇〇	二七二	八六
一九二三年	三,三八七,一九五	二五七	七九
一九二四年	三,六四七,八二六	二六〇	九〇
一九二五年	四,七二,八八八	二〇九	八七
一九二六年	五,三〇,五八五	二八八	一〇八
一九二七年	六,〇四三,六九三	二八二	一一六
一九二八年	七,二九七,〇〇四	二四五	一四五
一九二九年	九,四三五,四〇四	三六〇	一四〇

會社別支給補助金額

會社名	年度	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
エール、ユニオン會社 (資本金一四、〇〇〇、〇〇〇法)		八〇〇,〇〇〇 _法	八五〇,〇〇〇 _法	九五〇,〇〇〇 _法	一七五,〇〇〇 _法	一四九,〇〇〇 _法	三〇,〇〇〇 _法
空中輸送會社 (資本金一〇,〇〇〇,〇〇〇法)		一,二〇〇,〇〇〇	二六〇,〇〇〇	四三〇,〇〇〇	八四〇,〇〇〇	八四〇,〇〇〇	一四四〇,〇〇〇
國際航空會社 (資本金八、二五〇,〇〇〇法)		一三,五〇〇,〇〇〇	一五,一五〇,〇〇〇	一八,六五〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇,〇〇〇	三三,五〇〇,〇〇〇	三四,一五〇,〇〇〇
航空郵便會社 (資本金三〇,〇〇〇,〇〇〇法)		一七,三三〇,〇〇〇	二二,二一〇,〇〇〇	三三,四〇〇,〇〇〇	二五,二五〇,〇〇〇	二九,一〇〇,〇〇〇	七九,一〇〇,〇〇〇
エール、ユニオン、リーニ、ドリアン會社 (資本金六、四〇〇,〇〇〇法)						七五〇,〇〇〇	一三九〇,〇〇〇

二、航空工業ニ關スル保護獎勵

(一) 學術研究ニ關スル保護獎勵

佛國政府ハ航空ニ關スル基礎的航空科學研究ノ爲一九三〇年度ニ於テ九百萬法ヲ計上シ直轄研究所並各大學及其ノ他ノ研究所ニ於ケル學術研究費ニ充當セリ

(二) 航空技術員ノ養成

佛國政府ハ航空技術員養成ノ爲毎年高等航空工業學校 (Ecole Supérieure d'Aéronautique) ニ經營費トシテ補助金ヲ支給シ居ル外毎年數名ノ給費生ヲ入學セシメ相當額ノ學資ヲ支給シ居レリ
政府ノ右補助金支給額左ノ如シ

年 度	學校ニ對スル直接補助金	給費生ノ爲ニ支出セル金額	合 計
一九二五年度	六〇,〇〇〇 _法	三〇,〇〇〇 _法	九〇,〇〇〇 _法
一九二六年度	六〇,〇〇〇	四五,〇〇〇	一〇五,〇〇〇
一九二七年度	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	一二〇,〇〇〇
一九二八年度	六〇,〇〇〇	七二,〇〇〇	一二二,〇〇〇
一九二九年度	六〇,〇〇〇	七二,〇〇〇	一二二,〇〇〇
一九三〇年度	六〇,〇〇〇	七二,〇〇〇	一三二,〇〇〇

(三) 製作工業ニ關スル保護獎勵

政府ハ一九二四年度迄ハ定期航空會社及自家用飛行機購入者ニ對シ飛行機購買補助金ヲ支給シテ間接ニ製作者ヲ補助シタルモ爾後ハ之ヲ廢止シ毎年莫大ナル經費ヲ『標準型式機器研究及製作費』ノ名ノ下ニ計上シテ標準型式機器ヲ製作セシメ之ヲ購入シテ製作工業ノ世界的聲價ノ維持ニ努メ一九三〇年度ニハ此ノ經費ハ實ニ九千百萬法ニ達セリ尙他方ニ於テハ優秀ナル航空記録又ハ飛行競技成績ヲ舉タルコトヲ得タル製作者者ニハ別ニ獎勵金ヲ支給ス

而シテ標準型式機器ノ購入ニ關シ左ノ各委員會ヲ設置シテ其ノ審査決定ニ從事シ居レリ

(イ) 航空科學研究最高諮問會

本諮問會ハ航空科學ニ關スル最高ノ諮問機關ニシテ航空ノ發達ニ必要ナル科學的研究制度ニ關スル一切ノ問題ヲ審議ス

(ロ) 新型航空機器設計審査委員會

本委員會ハ新型航空機器ノ設計ヲ審査シ其ノ價値アルモノナリヤ否ヲ決定ス

(ハ) 標準型式適否審査委員會

本委員會ハ研究所ニ於テ標準型式機器ノ試験ヲ行ヒ其ノ適否ヲ審査ス

(ニ) 標準型式承認委員會

本委員會ハ標準型式適否審査委員會ニ依リテ提出セラレタル標準型式機器ヲ能フ限リ詳細ニ評價シテ以テ其ノ價格ヲ決定シ價値アルモノト判定シタル時ハ其ノ製作ノ爲購買契約ヲ締結ス

(ホ) 中央航空購買委員會

本委員會ハ航空機材ニ關スル一切ノ購買契約ヲ審議決定シ購買契約ニ關スル規定ノ解釋又ハ變更ニ關シ決定權ヲ有ス

(ヘ) 同一型式製作検査委員會

本委員會ハ設計及契約書ノ規定ト其ノ製品ノ一致シ居ルヤ否ヲ検査スルヲ以テ其ノ任トナス

三、民間航空乘員養成ニ關スル保護獎勵

佛國政府ハ民間操縦士ノ養成ヲ一切民間ノ航空團體ノ手ニ委ネ政府ハ單ニ此等ノ航空團體ニ經費ノ一部ヲ支給シテ以テ民間操縦士ノ養成ヲ獎勵シ居レリ

而シテ右航空團體ノ尤ナルモノハ一九二一年ノ創設ニ係リ佛蘭西航空協會 (Société France-Aviation) ノ經營スル民間操縦士養成所之ナリ本養成所ハ佛蘭西ノ各地方ニ多數ノ練習所ヲ有シ政府ヨリ毎年莫大ナル經營補助金ヲ支給セラレ居レリ

右補助金支給額左ノ如シ

一九二四年度

三、〇〇〇、〇〇〇法

一九二五年度	四、〇七五、〇〇〇法
一九二六年度	五、三七五、〇〇〇法
一九二七年度	五、八〇〇、〇〇〇法
一九二八年度	五、五〇〇、〇〇〇法
一九二九年度	七、〇〇〇、〇〇〇法
一九三〇年度	七、三〇〇、〇〇〇法

尙佛蘭西政府ハ一九三〇年度ヨリ本養成所ヲ欠ク地方ニ在ル練習生ノ爲飛行補助金ヲ支給シテ以テ操縦士ノ養成ニ努メ居レリ

四、其ノ他ノ事項ニ關スル保護獎勵

(イ)外國及佛蘭西ニ於ケル航空展覽會參加ニ對スル補助

佛蘭西政府ハ有力ナル航空展覽會ニ參加スル場合若干ノ補助金ヲ支給シ居レリ

(ロ)大飛行ノ實施及國際飛行競技會參加ニ關スル補助

佛蘭西政府ハ一九二七年度以降航空線路開設ノ爲ニスル試驗的大飛行ノ實施及國際飛行競技會參加ニ要スル經費ヲ補助シ居レリ之カ爲ニ支出セル金額ハ一九二七年及一九二八年ノ兩年度夫々五十萬法、一九二九年度九十萬法、一九三〇年度百二十萬法ナリ

(ハ)航空地圖作成ニ關スル補助

佛蘭西政府ハ數年前ヨリ航空地圖ノ作成ヲ陸地測量部及佛蘭西飛行俱樂部ニ委託シ毎年左ノ如キ金額ノ補助金ヲ支給セリ而シテ陸地測量部ハ航空一般圖ヲ又佛蘭西飛行俱樂部ハ航空地方圖ヲ作成ス

一九二五年度	一二〇、〇〇〇法	航空一般圖	三〇、〇〇〇法
		航空地方圖	九〇、〇〇〇法
一九二六年度	一〇五、〇〇〇法	航空一般圖	一五、〇〇〇法
		航空地方圖	九〇、〇〇〇法
一九二七年度	一一六、〇〇〇法	航空一般圖	一六、〇〇〇法
		航空地方圖	一〇〇、〇〇〇法
一九二八年度	一三六、〇〇〇法	航空一般圖	三六、〇〇〇法
		航空地方圖	一〇〇、〇〇〇法
一九二九年度	一八〇、〇〇〇法	航空一般圖	八〇、〇〇〇法
		航空地方圖	一〇〇、〇〇〇法
一九三〇年度	一六〇、〇〇〇法	航空一般圖	六〇、〇〇〇法
		航空地方圖	一〇〇、〇〇〇法

(ニ) 佛蘭西飛行俱樂部ノ補助

佛國政府ハ一八九八年創設セラレ航空全般ニ亘ル進歩發達ヲ目的トスル佛蘭西飛行俱樂部(Aéro Club de France)ニ對シ毎年相當額ノ補助金ヲ支給シ居レリ

(ホ) 練習用飛行機購入獎勵金

佛國政府ハ一九三〇年度ニ於テ民間操縦士ヲ養成スル各航空團體ノ練習用飛行機購入ノ爲ノ獎勵金トシテ五十萬法ヲ計上セリ

五、佛國民間航空豫算

年	次	民間航空豫算總額	内補助獎勵金
一九一九年	一九一九年	三七,〇〇〇,〇〇〇法	一八,〇〇〇,〇〇〇法
一九二〇年	一九二〇年	二八,七九四,七〇〇法	一〇,四三七,三五三法
一九二一年	一九二一年	一四七,四〇一,五二二法	三,七〇〇,〇〇〇法
一九二二年	一九二二年	一四七,二一〇,九七〇法	四,五三六,一〇〇〇法
一九二三年	一九二三年	一六,四六三,三五〇法	四六,九三二,〇〇〇法
一九二四年	一九二四年	一八,四六三,三五〇法	四六,九三二,〇〇〇法

一九二五年	一九二五年	一六三,五八二,〇〇〇法	六,一七五,〇〇〇法
一九二六年	一九二六年	一五二,五七五,〇〇〇法	七,一九五,〇〇〇法
一九二七年	一九二七年	一六九,二一一,二四〇法	七,七五,〇〇〇法
一九二八年	一九二八年	二六,二七四,一四〇法	一六,二〇〇,〇〇〇法
一九二九年	一九二九年	五五,一四九,六五五法	一七四,八四五,〇〇〇法
一九三〇年	一九三〇年	四九,四〇〇,〇六〇法	二二,三七七,〇〇〇法

第三
獨

逸

一、定期航空ニ關スル保護獎勵

(一) 航空行政官廳及法規ノ制定

憲法第七條第十九號ニ依リ陸上、水上及空中ニ於ケル自働交通機關ニ依ル交通ニ關スル立法權ハ國ニ屬ス

國ノ行政官廳ハ交通省(航空局)ニシテ下級官廳トシテ航空保安中央局(Zentralstelle für Flugsicherung)アリ航空通信事務地方局(飛行場無線通信所)ヲ統轄ス

航空關係事項ニシテ全然交通省又ハ航空保安中央局ニ依リ取扱ハレサルモノハ獨逸各州ノ權限ニ屬ス國政府ノ支持トシテ一ノ顧問機關即チ航空諮問會(Bairat für Luftfahrwesen)アリ一九二四年二月五日ノ命令ニ基ケハ交通大臣其ノ會員ヲ召集スルモノニシテ其ノ任務ハ航空方面ニ於ケル根本的ナル質疑其ノ他特ニ重要ナル件ニ對シ注意ヲ與フルニ在リ右航空諮問會ハ航空ノ安全ニ關スル専門的相談ニ應スル委員會(安全委員會)、航空路網及航空氣象業務ニ關スル地上設備ヲ爲スニ當リ諮問ニ應スル交通委員會、航空地圖ノ作成ヲ管掌スル地圖委員會及航空機乘員(操縦士、航空士)ノ利益ヲ其ノ一身上ノ關係ニ於テ確認スルニ當リ質問ニ應スル航空機乘員關係事項委員會ノ四委員會ヲ構成ス

(二) 航空事業發達ノ沿革

官民協力シテ航空船ノ建造飛行機ノ設計製作ニ付他國ノ追隨ヲ許ササルカ如キ異常ノ發達ヲ爲シタル

戰前ノ獨逸航空モ一敗血ニ塗ルヤ對獨平和條約ニ基キ管ニ軍用機材ノ輸入(第一七〇條)及陸海軍航空隊ノ設置(第一九八條)ヲ禁止セラレルノミナラス一九二二年五月ニハ更ニ同條約ニ因リ對獨航空監視委員會ノ設置ヲ見「(一)軍事手段トシテノ航空事業ノ禁遏(二)航空機性能ノ極端ナル制限(三)航空機ノ製造及使用ニ關スル許可申請ノ必要」行ハレ又航空事業ノ經營上嚴重ナル制限拘束ヲ受ケタルカ爲一時其ノ發達阻止セラレタルカノ觀アリシモ右制限ノ結果ハ計ラズモ獨逸民間航空ニ世界進出ノ路ヲ與ヘタルコトトナリ制限緩和ノ今日ニ於テハ北米ト相對シテ歐洲航空界ノ重鎮トナリ全世界ノ視聽ヲ一身ニ集メツツアリ

注目ニ價スルハ獨逸政府及之ヲ組織スル諸州カ自國ヲシテ常ニ航空界ノ覇者タラシメムトシテ努力シツツアルコトナリ即チ政府ハ財政上ノ困難ヲモ顧ミスシテ之ニ巨額ノ費用ヲ投シ一般青年ノ活動ヲシテ單ニ海陸ニ止マラス航空界ヘノ進出ヲモ促進セシメムト企圖シタリ斯ノ全世界ノ稱讚ヲ博シ全人類ノ印象ヲ深カラシメタル「ツエツペリン」伯號ノ世界一周飛行ノ如キ一ハ獨逸航空技術ノ優秀ニ因ルヘケンモ他ハ以テ之ヲ官民協力ノ結果ト爲ササルヘカラス今獨逸カ航空發達ノ初期ニ採リタル民間航空政策ヲ綜合要約セハ概ネ左ノ諸點ニ歸スヘシ

- 一、民間航空ニ對スル政府ノ財政的補助
- 二、政府ノ現有飛行場及航空機材ハ之ヲ保有スルト共ニ私有飛行場ハ之ヲ國有トシテ政府ノ援助及管

理ノ下ニ民間航空ノ強力ナル体系ヲ形成スルニ努メタルコト

- 三、各航空事業者ヲシテ其ノ事業遂行上協力セシメ又製造業者ヲシテ一定ノ標準型式ニ依リ航空機ヲ製作セシメ且其ノ型種ハ政府ノ認可ヲ必要トスルコト

四、特ニ官立ノ諸學校ニ於テ航空思想ノ普及ニ努メシムルコト

右政策樹立ノ結果トシテ同國ノ航空事業ハ一九二六年初頭獨逸「ルフト、ハンザ」會社ノ出現ニ依リテ大同團結ヲ遂ケ又航空輸送ヲ除ク他ノ航空事業ハ半官半民ノ組織ヲ有スル獨逸航空評議會(Deutscher Luftfahrt)ニ依リ統一セラレ獨逸航空界ハ茲ニ一大系統ノ下ニ整然タル組織ヲ有スルニ至レリ更ニ一九二六年五月ニハ航空ニ關スル巴里會議議定書ノ調印アリ之カ爲航空制限規定ハ著シク緩和セラレタルト同時ニ對獨航空監視委員會ノ解散ヲ見タルヲ以テサナキタニ進歩ノ道程ヲ辿リツツアリシ獨逸航空界ハ著々トシテ其ノ地歩ヲ固ムルニ至レリ

(三)補助金支給方法

國、各州及自治團體カ航空ニ對シ財政的援助ヲ爲スハ前述セル所ナルカ就中國ハ外國航空路ノ經營ニ對スル補助及航空安全施設並獨逸航空事業等ノ維持ニ依リテ航空ヲ保護シ航空機發動機及補助機器ノ作製等航空工業方面ヲモ亦考慮ス更ニ政府ハ經費ヲ支給シテ競技會及博覽會ヲ開催セシメ又ハ「レイン、ロジッテン」會社ニ於ケルカ如キ科學的研究ヲ援助シテ滑空機及小型飛行機ノ發達ニ寄與ス

國ノ援助ハ主トシテ對外的ナルニ反シ各州及自治團體ノ支出ハ國內航空及地上施設等ニ充當セラル左
ニ一九一九年以降獨逸政府ノ採リタル補助金支給ノ方策ヲ説述セム

一九一九年已ニ獨逸ハ柏林所在ノ全郵便局ヲシテ左ノ諸地方間ニ於ケル飛行郵便物ノ引受ヲ爲サシメ
タリ

「ライプチヒ」「ドルトムント」「ミュンヘン」「ワイマール」「ゲルゼンキルヘン」「ウキーン」「ハムブルク」
「デュースブルク」「ドレズデン」「ハンノーヴァー」

右飛行郵便差立ニ要シタル増料金ハ通常郵便料ノ他二十瓦ニ付一馬克ナリキ

尙獨逸郵政廳ハ財政困難ノ際ニモ拘ラス定期航空受命者ニ對シ一九二〇年度ニ於テ飛行距離一籽ニ付
一馬克ノ補助金ヲ下附シタルカ獨逸航空機所有者組合ノ經營スル定期航空ニ對シ支給シタル一九二〇
年度ノ政府補助金ハ千五百萬馬克ト稱セラレタリ

一九二一年ニ入ルヤ獨逸政府ハ民間航空獎勵ノ爲一層適切ナル方途ヲ講スルノ急務ナルヲ認メ航空輸
送會社代表者ノ意見ヲ徵シタル上一九二一年五月一日ヲ以テ航空輸送會社ニ對シ直接財政上ノ援助ヲ
爲スコトノ規定ヲ制定實施セリ之ニ依レハ政府ノ認可シタル航空路ニ於テ所定ノ航空回數ニ對シ平均
八割以上ノ郵便飛行ヲ實施スル會社ニ對シ其ノ飛行距離三百籽未滿ナル時ハ一籽當一〇馬克ヲ又三百
籽以上ノモノニ對シテハ一籽當十一馬克ヲ補助金トシテ支給スルコトト爲シタリ

右ノ他獨逸政府ハ航空會社ニシテ經營困難トナリタル場合ニ於ケル從業者及設計者ノ處置ヲ顧慮シ當
該年度ノ豫算中ヨリ一定額ヲ控除保留シタリ而シテ獨逸政府カ財政困難ノ狀態ナリシニ拘ラス其ノ交
付シタル航空補助金ノ額ヲ見ルニ一九二〇年度ニハ千百萬馬克、一九二一年度ニハ二千六百萬馬克更
ニ一九二二年度ニハ四千五百萬馬克ニシテ其ノ額ニ於テハ殆ト毎年倍加シタリ

一九二三年度ニハ馬克ノ購買力ニ著シキ動搖ヲ生シタルカ爲政府ハ航空輸送補助金ヲ燃料費ニ比例シ
テ支給シタリ該補助金ノ一籽當金額ハ飛行一籽乃至一・五籽ニ消費スル燃料費ニ相當スルモノニシテ
政府ハ之ニ依リテ單ニ會社ノ營業費ヲ補助シタルノミナラス飛行機ノ更新費ヲモ支給シタリ

又議會豫算委員ハ一九二三年ニ於テ航空及自動車費中ノ三百十五萬馬克ヲ共進會參加費及競技會費等
ノ諸費ニ充當スルコトヲ認可セリ

政府カ一九二四年度ニ於テ民間航空事業ニ充當シタル經費ハ約千四十五萬七千馬克ナリシカ右金額ノ
中四百九十萬馬克ハ之ヲ定期航空路經營補助費等トシテ使用シタリ

斯クスル中獨逸モ英國ニ倣ヒテ獨逸「ルフト、ハンザ」會社ヲ設立シタルヲ以テ政府ハ補助金交付ノ條
件ヲ定メテ合目的の使用ヲ確保シタリ基本的條件ノ一ハ郵便物輸送ノ義務ニシテ此ノ郵便物輸送ニ付
郵政當局ハ其ノ輸送業務ニ應シ會社ニ補償ヲナシ發送人ヨリ比較的低額ノ特別料金ヲ取立ツ國政府ノ
補助ハ定期的ニ飛翔シタル飛行籽ニ應シ附與セラル籽補助金ハ類別セラレタル原型飛行機ニ應シテ種

々ノ額ニ定メラルル而シテ其ノ補助ハ會社ノ旅客收入ヲ控除シタル後ノ費用ヲ償フニ足ル如ク計算セラ
ルルナリ

一九二八年ニハ獨逸「ルフト、ハンザ」會社ハ其ノ經費ノ約三割二分ヲ會社固有ノ收入ニ依リテ償ヘリ

(四) 定期航空會社ノ概況

外ニ在リテハ政策的壓迫ニ苦シムト同時ニ内ニ在リテハ經濟的倒壊ニ惱ミシ獨逸航空界ハ一九二一年
ニハ一時危殆ニ瀕シタルモ一九二三年春ニハ在來ノ小航空會社合シテ「アエロロイド」會社及「ユンカ
ース」會社ノ二社ト爲リ互ニ激烈ナル競争ヲナシ獨逸航空發達ノ爲ニ大ナル刺戟ヲ與ヘタリ然レトモ
斯ノ如ク二社併立スル時ハ畢竟補助金ノ二次的費消ヲ免レス隨ツテ經濟的ニ不利ノ状態ヲ惹起スルニ
至リシカハ一九二五年秋交通省ハ兩社ノ合併ヲ提唱シ一九二六年一月ニハ遂ニ獨逸「ルフト、ハンザ」
設立ノ事成リ政府ハ之ニ補助金ヲ交付シ以テ航空輸送ノ促進ヲ計ラシメツツアリ最近同社ヲ通シ交通
省ノ採リタル航空政策ハ(1)關係國トノ協同ニ依リテ歐洲航空網ヲ完成スルコト及(2)大陸太平洋橫斷航空
路ノ設定ニシテ前者ハ著々トシテ其ノ歩ヲ進メ一九二九年度ニ於テ獨逸ハ歐洲所在國ノ全首府ト航空
ニ依ル連絡ヲ保有スルニ至レリ然レトモ後者ニ屬スヘキ極東航空路及南北大西洋橫斷航空路ノ設定計
畫ハ資金欠缺ノ爲僅ニ其ノ準備行爲ヲ了セシニ止マレリ

現在同國航空會社ノ主要ナルモノハ獨逸「ルフト、ハンザ」會社、獨露航空輸送有限責任會社(デルルフ

ト)及北「バイエルン」航空株式會社ノ三社ナルカ特ニ重要ナル「ルフト、ハンザ」ノ營業成績ヲ數字のニ
示サム

(イ) 飛行距離

種別	年度	一九二九年度	一九二八年度
定期航空		八、九八六、六七四 ^料	一〇、〇〇〇、三六三 ^料
特別航空		三六三、六七〇 ^料	五二九、五一四 ^料
合計		九、三五〇、三四四 ^料	一〇、五二九、八七七 ^料

(ロ) 定期航空ニ於ケル輸送量

種別	年度	一九二九年度	一九二八年度
旅客		八七、〇一九人	一一一、一一五人
小荷物		六九〇、六〇九 ^担	八六八、四六〇 ^担
貨物		一、一九八、七九〇 ^噸	一、〇二三、二〇六 ^噸
郵便物		三六六、八四五 ^噸	三一七、五八八 ^噸

二、航空工業ニ關スル保護獎勵

獨逸航空工業ノ成立ハ一九一〇年ノコトニシテ大戰勃發ニ至ル迄ハ數型式ノ飛行機々器ノ少數製作セラレタルニ過キサリシモ大戰ノ結果ハ本工業ニ一大飛躍ヲ爲サシメ戰後「ヴェルサイユ」條約及倫敦覺書ニ依リ幾多ノ束縛ヲ受ケタレトモ一九二六年ノ所謂「航空機ノ概念規定」廢棄セララルルニ於テ辛シテ再興ノ端緒ヲ見出スコトヲ得タリ現今獨逸航空工業ハ國內航空企業者及外國ヨリ爲サルル各種ノ註文ニ依リテ維持セラレツツアリ國政府モ亦之カ助長ノ目的ヲ以テ諸種ノ委託ヲ爲シ居レリ尙航空技術ノ爲ニ支出セシハ一九二九年度ニ於テ一千四百五十萬五千馬克ナリシモ一九三〇年度ニハ五百四十四萬五千馬克ニ削減セラレタリ然レトモ一九三〇年度ニハ獨逸航空工業ノ經濟的促進ノ爲ニ七百萬馬克ヲ支出シタリ今便宜上學術ニ關スルモノ及製作工業ニ關スルモノノ二項ニ分チテ保護獎勵ノ概況ヲ記セントス

(一) 學術研究ニ關スル保護獎勵

一般航空科學研究ヲ管掌スルモノニ航空科學協會 (Wissenschaftliche Gesellschaft fuer Luftfahrt) アリ大戰中ノ技術本部ハ戰亂ノ終息ト共ニ廢セラレタルヲ以テ之ニ代ルヘキ私立航空科學研究機關トシテ設立セラレ航空技術者ヲ糾合シ多數會員ノ連絡ヲ計ル

「アードレルスホーフ」所在獨逸航空研究所ハ國家ノ補助金ヲ受クル研究團體ニシテ一九二九及一九三〇兩年度ノ維持費ハ各々約百六十萬馬克ニ上ル此ノ他特殊ノ研究委託ノ爲ニ一九二九年度ニ於テ七十

二萬馬克、一九三〇年度ニ於テ八十三萬五千馬克ヲ計上セリ本研究所ハ多數都市ニ支部ヲ有シ各支部ハ複製セラレタル機器又ハ現ニ使用ノモノニ關シ試験ヲ實施ス

「ゲッティンゲン」流體力學研究所ハ「カイゼル、ウキルヘルム」氣流研究所ニ分屬シ流體力學ノ研究ヲ爲ス本研究所及之ニ類似ノ機關ニ對スル國家補助ハ一九二九、一九三〇兩年度ニ於テ各々五十萬馬克ナリ右ノ他航空科學ニ關スル研究ハ殆ト凡テノ高等工業學校及大學ニ於ケル教授學生間ニ行ハレ競技飛行及右研究機關ノ爲ニセシ補助金ハ一九二九年度ニ於テ二十萬馬克、一九三〇年度ニ於テ二十四萬馬克ナリ

(二) 製作工業ニ關スル保護獎勵

國政府ハ賞與金授與其ノ他適當ナル方法ニ依リ優良航空機ノ製作ヲ表彰シ航空博覽會ニ對シテハ政府側ヨリ統計寫真其ノ他ノ資料ヲ出品スルノミナラス工業家ノ出品費ヲ補助ス又競技會、長距離飛行及巡回飛行等ヲ主催シ又ハ補助シ優秀ナル成績ヲ舉ケタル航空機ニ賞金賞品等ヲ授與シ之ヲ表彰ス斯ノ如キ博覽會出品、競技ニ對スル賞金授與及優秀航空機表彰ニ依ル航空獎勵費トシテ政府カ豫算ニ計上セル金額ハ一九二七年度及一九二八年度トモ各々二百萬馬克ナリ

獨逸「ルフト、ハンザ」ニ對シ政府カ巨額ノ補助金ヲ交付シ會社ノ負擔トシテ比較研究ノ用ニ供スル場合ヲ除キ其ノ使用飛行機發動機及附屬品總テヲ自國製品ノ購入ニ限リタルハ國産品使用獎勵ノ方策ナリ

尙獨逸ノ主要ナル航空機製作會社ハ相集リテ獨逸航空機製造組合 (Verband Deutscher Luftzeug) ヲ組織シ政府ニ對シ航空機製作會社ヲ代表シ併テ航空機製作工業ノ發達ヲ圖ル航空機及發動機ノ新型ハ主トシテ航空機製作業者及飛行學校ニ於テ製作セララルカ此ノ目的ノ爲ノ補助金ハ小額ニシテ一九二九年度ニハ航空機製作ノ爲ニ四百三十萬馬克、發動機ノ爲ニ五十五萬五千馬克ヲ支出セリ

三、民間航空乘員養成ニ關スル保護獎勵

獨逸航空ハ他國ト異ル特殊ノ制限ヲ受クル事情ニ在ルヲ以テ政府ノ乘員養成ニ關與シ得ルハ僅ニ職業飛行家ノミニシテ公ノ補助金ヲ以テスル養成機關ハ全獨逸國ヲ通シ只獨逸交通飛行學校アルノミ同校ハ自ラ定期飛行郵便線路ヲ經營シ以テ實際飛行術ノ練習ニ資シツツアリ其ノ目的トスル所ハ少クトモ一ヶ月間此ノ練習飛行ニ從事セシメ以テ學生ニ如何ナル惡天候ニ於テモ正規ニ確實ニ飛行ヲ實施シ得ル能力、不時著陸其ノ他ノ困難ニ逢着セル場合任務ノ遂行ニ關シ萬全ノ策ヲ講シ得ル智識ト沈着ナル勇氣トヲ體得セシムルコトニアリ蓋シ斯ノ如キ實地經驗ヲ經タル操縦士ニシテ初テ旅客輸送ヲ託シ得ヘケレハナリ

交通飛行學校ハ斯ノ如ク實際技術ノ習得ヲ特ニ重大視スルト雖固ヨリ學術智識ノ訓育ヲ輕視スルモノニ非ラス實習ト相並テ技術ノ研究ハ固ヨリ航空法規、氣象學及外國語等ノ習修ヲモナサシム

最近ニ於ケル政府ノ獨逸交通飛行學校補助狀況左ノ如シ

獨逸國交通省航空自動車局所管豫算ノ中「飛行機乘員養成、滑空飛行、小型飛行機、自由氣球、航空興行及航空文獻ノ保護獎勵ニ宛ツル補助金」

一九二七年度 四、七〇〇、〇〇〇馬克
一九二八年度 四、六五〇、〇〇〇馬克

右補助金ノ大部分ハ乘員養成ノ目的ノ爲ニ獨逸交通飛行學校ニ交付ス是一般飛行學生ハ巨額ノ練習費ヲ負擔シ得サルヲ常トスルカ故ニ之ヲ補助セムカ爲ナリ尙政府カ養成費トシテ支出セルハ一九二九年及一九三〇年ノ兩年度ニ各々二百三十萬馬克ナリ

獨逸ニ於テハ前述ノ如ク交通飛行ニ從事スル乘員以外ノ飛行家(所謂「スポーツ」飛行家)ノ養成ニ對シテ公ノ補助ヲ與フルコト禁止セラレ居ルカ故ニ交通飛行學校以外ノ養成機關ハ何レモ非常ノ苦境ニ立チツツアリ蓋シ巨額ノ養成費ヲ專ラ寄附金ニ仰カサルヘカラサルヲ以テナリ

而モ是等大ナル束縛アルニモ拘ラス獨逸ニ於ケル航空熱ハ豪モ衰ヘス航空技術ヲ習得セントスル青年ノ數ハ年ト共ニ激増シツツアルノ實狀ナリ此ノ狀勢ニ鑑ミ今尙幾多ノ困難ト闘ヒ獨力養成ニ當リツツアル飛行學校全國ヲ通シ其ノ數十二三ニ及フ其ノ最モ重要ニシテ且優秀ナルハ獨逸航空協會ノ經營スル『獨逸航空有限責任會社』トス

抑モ獨逸ノ「スポーツ」飛行獎勵ノ爲ニハ一九二三年ニ「スポーツ飛行有限責任會社」設ケラレ一般寄附金ト政府ノ獎勵金ニ依リ「スポーツ」飛行ノ養成ニ當リ居レリ然ルニ一九二六年五月ノ巴里ノ對獨航空協定ニ依リテ發動機ヲ以テスル「スポーツ」飛行ヲモ公ノ資金ニテ補助スルコトヲ禁セラルルニ至レリ茲ニ於テ「スポーツ」飛行有限責任會社ハ解散シ獨逸航空協會右會社ニ代リテ「スポーツ」飛行養成事業ヲ繼承シ全力ヲ擧ケテ其ノ使命ノ貫徹ニ努ムルコトナレリ

此ノ目的ノ爲ニ獨逸航空協會幹部ハ前掲「獨逸航空有限責任會社」ヲ設立セリ同社設立ノ趣旨ヲ詳說スルニ獨逸ニ於テハ交通飛行學校カ國家ノ補助ヲ受ケテ飛行界ニ活躍セムトスル青年ニ對シ空中交通ニ當ル飛行機操縦士トシテノ完全ナル資格ヲ與フル途ヲ拓キツツアリト雖其ノ收容學生數ハ僅少ニシテ航空熱ニ燃ユル獨逸青年ノ一小部分ノ希望ヲ達成セシメ得ルニ過キス然ルニ一方航空技術ヲ「スポーツ」トシテ習得スルコトヲ目的トシ之ヲ職業トシテ營ムノ意圖ヲ有セサル者亦頗ル多シ

「スポーツ」飛行家教育ハ他ノ「スポーツ」ニ比シテ尙巨額ノ學習費ヲ要スルニモ拘ラス熱烈ナル「スポーツ」飛行家志望者ハ年々ニ増加シ目下獨逸ニテハ交通飛行學校以外ニ若干ノ私人及製作會社ノ養成機關之ニ當リツツアリト雖獨逸航空協會ハ自己ノ經營スル學校ニ於テ定期ニ「スポーツ」飛行家ノ養成ヲ行ヒ以テ其ノ數ノ増加ヲ計リ且一方養成費ヲ可及的ニ低減シ之ニ依リテ養成セラレタル「スポーツ」飛行家ノ確實ナル一體系ヲ形成スルヲ以テ其ノ目的トナセリ

本企業ノ財政維持ハ一方公ノ補助ヲ受クルノ道閉鎖セルト同時ニ他方有産階級ヨリノ寄附金ヲ受クルノ道ハ滿タサレサリシヲ以テ當然至難トナリ遂ニ養成費ノ一部ヲ學生ヨリ徵收スルノ方針ヲ採レリ之ニ依リ懸念セラレタルハ「スポーツ」飛行ヲ有産階級ニ依リ獨占セラレサルヤノ事ナリシカ事實ハ之ニ反シ右階級ヨリノ志望者ハ僅少ニシテ却テ一般ノ青年ハ苦心慘憺之ニ要スル經費ヲ調達シ熱心ニ入學ヲ希望シ其ノ數莫大ニ上レリ

目下航空協會ノ設立セル獨逸航空有限責任會社ノ飛行學校ハ「ウユルツブルク」及「ベーブリンゲン」ノ二箇所ニアルノミナレトモ其ノ設備ハ完全ナリ

尙獨逸交通飛行學校及獨逸航空有限責任會社以外ノ飛行學校ハ其ノ數約十二ニ及ヒ何レモ航空機製作會社又ハ私人ノ經營ニ係ルモノナリ

四、各種航空團體ニ關スル保護獎勵

(一) 獨逸航空協會 (Deutscher Luftfahrt Verband)

同協會カ「スポーツ」飛行家ノ養成ニ當リシコトハ已述ノ如クナルカ協會ハ獨逸航空評議會ノ實行機關ニシテ獨逸國內及國外ニ對シ獨逸航空ヲ代表ス

飛行俱樂部ハ本部ヲ柏林ニ置キ航空ニ關スル新知識ノ普及交換ヲ計ルヲ以テ目的トシ雜誌「ルフト、ウエーグ」ヲ刊行ス

(二) 航空思想ノ普及宣傳

航空思想ノ普及宣傳ノ趣旨ハ固ヨリ之ニ依リテ飛行機及航空船ニ關スル輿論ヲ喚起スルト同時ニ一般青年ノ志氣ヲ振作シ常ニ列國中ノ先驅者トシテ獨逸航空界ノ世界的進出ノ基礎ヲ作ラシムルニ在リ而シテ之カ宣傳機關トシテ認ムヘキハ政府ニ於テハ交通、文部及國防ノ三省、民間ニ在リテハ私立協會及關係諸社會等アリ尙其ノ方法モ政府ニ於テハ飛行大競技會、刊行物、博物館及各種航空ニ關スル集會ニ於テ航空知識ヲ啓發スルニ對シ民間ハ飛行競技會ヲ初メ模型、發動機、滑空飛行及落下傘ニ關スル競技並航空輸送及遊覽飛行ニ依リテ其ノ實際的知識ヲ與フ而シテ航空思想普及ニ貢獻スヘキ機關ニ對スル國家ノ支出ハ一九二九年及一九三〇年ノ兩年度ニ各々四十萬馬克ナリ

五、獨逸民間航空豫算

種別	年次	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年
航空豫算總額		四六八五,〇〇〇馬克	四六二八,五〇〇馬克	五,七四,三九五馬克	三,七六,六三三馬克	四,七七,五〇〇馬克
補助金		一五,五七,〇〇〇	三三,〇六,〇〇〇	二〇,一六,〇〇〇	一三,〇〇〇,〇〇〇	一九,〇〇〇,〇〇〇

第四米 國

一、定期航空ニ關スル保護獎勵

(イ) 一九二六年五月「ビンガム、パーカー」案米國上下兩院ヲ通過シ「一九二六年商業航空法」トシテ施行セラルルニ至リ米國ノ民間航空策ノ基礎始メテ確立セラレタルカノ觀アリ即チ同法ニ依リ米國民間航空事業ハ商務省ノ主管事項トナリ商務大臣カ民間航空ノ保護、助長、取締等ニ付廣汎ナル權限ヲ有シテ事ニ當ルコトトナリ從來其ノ取締ハモトヨリ其ノ助長保護等ニ關シ統一スル所ナカリシ米國民間航空事業ハ茲ニ始メテ政府ノ直接ノ支配下ニ置カレ同時ニ其ノ發達ノ基礎確保セラルルニ至リタルモノト謂フコトヲ得ヘシ

(ロ) 一般ニ民間航空事業ノ保護獎勵等ニ關シ米國從來ノ航空政策ハ歐洲諸國政府ノ夫ニ比シ著シク自由主義的傾向ヲ有シタリキ

例之政府カ直接民間航空事業者ノ爲補助金ヲ下附シ或ハ其ノ定期航空ニ付補償金ヲ交付スルカ如キ事例ハ米國民間航空界ニ於テ之ヲ發見スルコトヲ得ス

蓋シ建國以來ノ傳統的精神タル自主自由ノ思想ハ其ノ豐富ナル富力、特殊ノ政治的及經濟的組織、地理的諸條件等ト相俟テ直接ノ補助ヲ避ケテ却テ間接ノ補助即チ飛行場ノ設置、航空標識ノ建設、航空氣象及通信連絡ノ完備等ニ付政府ノ助力ヲ仰クヲ悅ハムトスルノ風ヲ馴致シタルモノナルヘシ
從テ一九二六年航空商業法モ右ニ記述シタル間接的補助ヲ以テ民間航空事業保護策ノ根本方針トシ其

ノ主義ノ下ニ諸種ノ保護的規定ヲ設ケ居レリ

民間航空ノ發達ハ定期航空線路網ノ充實發展ニ極ルモノト謂フコトヲ得ヘシ蓋シ時間的ニモ空間的ニモ從來ノ如何ナル運送方法ニモ優レル空中輸送ナル新運送方法ハ民間航空ノ生命ヲナスモノニシテ此ノ空中輸送ノ機能ト效果トハ聯絡ト統一トヲ保チタル定期的航空ノ發達ニ俟ツ外ナキヲ以テナリ依之觀之民間航空ノ保護獎勵ハ民間定期航空ノ保護獎勵ニ重點ヲ置クヘキコト明白ナリ斯ルカ故ニ一九二六年商業法モ亦此ノ點ニ着眼シテ諸種ノ保護規定ヲ設ケタルモノト觀察スルコトヲ得ルモノナリ

定期航空ニ關スル米國ノ保護獎勵策ハ一言ニシテ之ヲ謂ヘハ間接的補助ヲ其ノ請神トナスモノト謂フコトヲ得ヘシ一九二六年商業航空法ニ依レハ左ノ規定ヲ設ケ一般民間航空ト共ニ定期航空ニ間接ノ保護ヲ加フ

(一) 商務大臣ハ商業航空發達ノ可能性ニ關スル研究、氣象事務ニ關スル必要ナル勸告、事故原因ノ調査、記錄及公表、外國政府トノ航空情報ノ交換並航空港建設獎勵ニ依リ民間航空ヲ獎勵スルノ一般の權限ヲ賦與セラル

(二) 議會ノ承認ヲ經タル豫算ノ範圍内ニ於テ燈火及信號設備ノ建設、運用及維持、航空路地圖ノ刊行並中央政府ノ管理スル航空港其ノ他ノ航空設備ヲ當該設備管轄官廳長官ノ命令ニ基キ一般ニ公開スルコト

(三) 商務大臣ハ如何ナル航空路ト雖之カ獨立的使用權ヲ許與スルコトヲ得ス

(四) 外國人所有ノ航空機ハ國內商業航空ヲ爲スコトヲ得ス

(五) 氣象局ハ議會ノ承認ヲ經タル豫算ノ範圍内ニ於テ航空路沿線ノ航空ノ爲必要ナル氣象報告ヲ爲スコトヲ要ス

定期航空ノ保護獎勵ニ關シ特ニ注意スヘキハ一九二五年二月二日ノ「ケリー」法(航空郵便法)ノ制定ナリトス即チ本法ニ基キ「郵政長官ハ一切ノ個人商社又ハ法人トノ間ニ航空郵便ヨリ生スル收入ノ五分ノ四ヲ超ヘサル割合ヲ以テ其ノ指定スル地點間ニ於ケル航空郵便物ノ航空機ニ係ル遞送契約ヲ締結シ得ルコト及第一種郵便物ヨリ生スル收入ノ五分ノ四ヲ超ヘサル割合ヲ以テ航空郵便以外ノ第一種郵便物ノ航空機ニ依ル遞送契約ヲ締結シ得ルコトノ權設ヲ有ス」ルコトナリタルニ依リ各地ニ請負航空郵便線路ノ開設ヲ見ルニ至リタリ殊ニ從來ヨリ存續セシ若干ノ政府直營航空郵便線路ハ一九二七年九月一日以降全部之ヲ民間ノ經營ニ移シタル事實ハ政府ノ直營カ民間航空事業ヲ壓迫スルノ結果ヲ招來シ民間定期航空保護ノ精神ニ背馳スルニ至ルヲ惧レタルノ事情ヲ窺知セシムルモノニシテ政府ノ郵便物空中輸送カ總テ民間定期航空事業ニ委託セラレタル結果ハ之等民間定期航空ノ經營者ニ採算上ノ一保障ヲ供與スルモノナリ此ノ意味ニ於テ米國政府ノ間接的補助ヲ看過スルコトヲ得サルナリ

(ハ) 一九二五年二月二日ノ制定ニ係ル航空郵便法ニ基キ郵便長官カ私人トノ間ニ航空郵便經營ニ關スル請

負契約ヲ締約シタル結果形成セラレタル米國航空郵便航空線路網ヲ參考ノ爲左ニ示ス
 請負航空郵便經營者 (一九二九年十二月三十一日現在)

航空路及番號	經營者	遞送一封 度ニ對ス ル報酬	使用 機數	開設時期
(1) ポストン—紐 育	コロニアル、エア、トランスポート	三、〇〇〇	五臺	一九二六年七月一日
(2) 市 俄 古—セントルイス	ロバートソン、エアクラフト	二、五三二	九臺	一九二六年四月十五日
(3) 市 俄 古—ダラス	ナショナル、エア、トランスポート	三、〇〇〇	(17)共 三六臺	一九二六年五月十二日
(4) ソートレイキティー—ロスアンゼルス	ウエストターン、エア、エクスプレス	三、〇〇〇	(12)共 二五臺	一九二六年四月十七日
(5) ソートレイキティー—バヌ	ウオルター、テイ、ヴァーネー	三、〇〇〇	九臺	一九二六年四月六日
(8) 沙 市—ロスアンゼルス	パシフィック、エア、トランスポート	二、八二五	六臺	一九二六年九月一日
(9) 市 俄 古—ミネアポリス	ノースウエスト、エアウエイズ	二、七五〇	五臺	一九二七年六月七日
(11) クリフブランド—ピッツバーグ	クリフオード、ボール、マッキースポート	三、〇〇〇	(4)共 五臺	一九二七年四月二十一日
(12) シヤイエーン—プロ	ウエストタン、エア、エクスプレス	〇、八三〇	(5)共 四臺	一九二七年五月三十一日
(16) クリフブランド—ルキスビル	コンティネンタル、エアラインズ	一、二二〇	四臺	一九二八年八月一日
(17) 紐 市 俄 古—市	ナショナル、エア、トランスポート	一、二四〇	(3)共 三六臺	一九二七年九月一日
(19) 紐 市 俄 古—アトランタ	ボーイング、エア、トランスポート	一、五〇〇	二八臺	一九二七年七月一日
(20) アルバニー—クリフブランド	ピッツトカーン、アビエイション	三、〇〇〇	(25)共 一六臺	一九二八年五月一日
	コロニアル、ウエストタン、エアウエイ	一、二一〇	九臺	一九二七年十二月十七日

(21) ダラ ス—ガルベストン	テクサス、エアトランスポート	二、八九〇	(23)共 七臺	一九二八年二月六日
(22) ダラ ス—ラレド	同	同	七臺	同
(23) アトランタ—ニウオルレアンス	セントタマニー、ガルフォースト、エアウエイズ	一、七五〇	八臺	一九二八年五月一日
(24) 市 俄 古—シンシナチ	エム、ブリー、リツド	一、四七〇	一〇臺	一九二七年十二月十七日
(25) アトランタ—マイアミ	ピットカーン、アビエイション	一、四六〇	(19)共 一六臺	一九二八年十二月一日
(26) グレートフォール—ソートレイキティー	ナショナルパーク、エアウエイズ	二、四七五	五臺	一九二八年六月三十日
(27) ベイシティー—市 俄 古	トンプソン、エアローノティカル	〇、八九〇	—	一九二八年七月十七日
(28) セントルイス—マハ	ロバートソン、エアクラフト	〇、七八五	—	一九二九年
(29) ニウオルレアンス—ハウストン	セントタマニー、ガルフォースト、エアウエイズ	一、〇〇〇	—	一九二九年
(30) 市 俄 古—アトランタ	インターステイト、エア、ラインズ	〇、七八〇	一二臺	一九二八年十二月十九日
(32) バス—コー沙 市	ヴァーニー、エア、ラインズ	〇、〇九〇	—	一九二九年

次ニ之等ノ請負郵便航空路ニ於テ一九二九年中各航空會社カ實施シタル飛行、輸送シタル郵便物及其ノ受ケタル報酬額等ヲ表示セハ左ノ如シ
 各航空路一九二九年度航空郵便輸送成績

(1) 航空路及番號	航空路	飛行	輸送郵便物	報酬金額
(1) ポストン—紐 育	延長哩數	一、九三哩	輸送郵便物 (封度)	三、四、四三〇、五
	豫定哩數	一、三四、五〇八哩		
	實施哩數	一、二八、三七五哩		

(2)	市俄古—セントルイス	二七六	三三八、六〇四	三三〇、三三八	七七、二九八	一四三、六三六〇
(3)	市俄古—ダラ	一、〇五九	一、三〇五、六八六	一、一六五、八三三	三九一、五〇八	一、一七四、四四七二
(4)	ソートレイキ—ロスアンゼルス	六〇〇	七三七、〇九九	七二一、五二七	七五七、六八四	二、二七三、九七三六一
(5)	ソートレイキ—バスコ	五三〇	五〇六、八八六	四七四、三五四	三三六、四五九	七〇八、〇四六二六
(8)	沙市—ロスアンゼルス	一、二四一	七七七、七九四	七六二、五〇三	二五四、八一二	七三二、二七八五
(9)	市俄古—ミネアポリス	五〇三	七五六、一〇六	七〇六、四〇四	一七九、六五四	四九三、九〇一・二
(11)	クリープ—ピッツバーク	一三三	一五四、三六三	一四一、八九二	九七、〇二六	二九〇、九四九・〇九
(12)	シヤイエン—ブロー	一九九	一五七、三三四	一四九、八七九	九九、一四八	八二、〇四三・九八
(16)	クリープ—ルキスビル	三四五	三九六、九四二	三五四、七八六	九五、九四四	一一六、九九五・五六
(17)	紐育—市俄古	七二八	一、三五二、一六五	一、二二三、八五三	一、六二〇、〇一七	一、三九一、〇三六・六三
(18)	市俄古—桑港	一、九三三	二、五七一、二二四	二、四九四、〇九九	一、七九〇、五七六	三、六七〇、八九八・四九
(19)	紐育—アトランタ	七三三	六四四、六三七	五五五、二一六	三四〇、〇七三	一、〇二〇、二二七・二七
(20)	アルバニー—クリープランド	四四六	三五五、二二二	三三三、七三三	一〇一、〇九九	一一三、三二四・四六
(21)	ダラス—ガルベストン	三三〇	二二七、九〇六	二三〇、九六二	四五、三九三	一一三、一七五・三二
(22)	ダラス—スーラド	五九	三七五、九四四	三六四、七〇三	八三、七〇〇	二四一、八四八・四九

(23)	アトランタ—ニウオルレアンス	四八三	三三九、八七七	三二五、〇八〇	八六、六一〇	一五二、五二六・五二
(24)	市俄古—シンシナチ	二七〇	三九七、八四二	三六二、八五二	七九、四三	一一七、七〇・七二
(25)	アトランタ—マイアミ	七三六	四八一、八六二	四六七、三三三	一一、五二一	一七三、三三・二四
(26)	グレート—ソートレイキシティ	四八九	四三五、九九五	四〇九、〇六三	六九、三六八	一七二、五四三・三三
(27)	ベイシティー—市俄古	七三三	五四五、二六二	四七九、二〇三	一七三、二七六	一五四、四一・七四
(28)	セントルイス—オマハ	四〇四	二七二、六四八	二五四、二二六	六五、二七八	五二、一九六・七六
(29)	ニウオルレアンス—ハウストン	三一九	二〇九、五〇四	二〇四、一九二	四二、一四五	四二、一四七・〇五
(30)	市俄古—アトランタ	七六八	五六四、三三三	五二四、〇一四	九八、三二二	七六六、三三・三五
(31)	市俄古— <small>（ミニユシバル飛行場 市俄古グラッドパーク）</small>	九	九六三	七五六	一九、三三八	一一、四五〇・〇〇
(32)	バスコ—沙市	四四九	一一五、四五四	一〇〇、五七六	五四、二〇五	四八七・七・四五

(リ) 右ノ外政府ハ國民航空諮問委員會(一九一五年創設)、米國民間航空調査委員會(一九二五年六月組織)等ヲ設ケ航空ニ關スル學理、技術及事實問題ノ研究並調査等ヲ爲サシメ其ノ結果ヲ公表セシメテ民間航空ノ發達ニ寄與セル所少シトセス

二、航空工業ニ關スル保護奨勵

(イ) 政府ノ根本政策

航空工業ニ關スル保護獎勵ニ付キテモ亦航空機及發動機等ノ製作工場ニ補助金ヲ交付スルカ如キ直接保護獎勵ハ之ヲ見ルコトヲ得ス反之間接ノ保護ハ此ノ方面ニ於テモ亦其ノ例ニ乏シカラサルナリ

(ロ) 陸海軍機ノ民間製作者ニ對スル註文

陸海軍部カ種々ノ方面ニ於テ從來民間航空ノ指導ト啓發トニ努メ來リシ事少シトセサルモ就中注目スヘキハ陸海軍部カ其ノ費用ヲ以テ國內民間航空機製作所ニ航空機ノ製作ヲ註文シ又ハ其ノ他ノ製作技術上ノ研究ヲナサシメ以テ航空工業ノ發達ニ間接ノ保護ヲ與ヘタル點ナリトス

(ハ) 國民航空諮問委員會

國民航空諮問委員會ハ夙ニ一九一五年創設セラレタル諮問機關ニシテ陸海軍各二、其ノ他十合計十二名ノ委員ヨリ成レルカ最近同會ニ陸軍一、海軍一、飛行郵便部一、計三名ノ委員ヨリ成ル航空機動力裝置小委員會ノ設置ヲ見同小委員會ハ航空事故ノ主要原因タル動力裝置ヲ研究シ以テ航空事故原因ノ徹底的調査ヲ遂クルノ目的ヲ以テ陸海軍及郵政廳ノ航空事業ニ付其ノ航空事故ノ材料蒐集及分拆ヲ爲スコトトナリタルカ故ニ本委員會ノ民間航空界ニ對スル關係愈々密ナラントシ其ノ民間航空工業ノ發達ニ裨益スル所少カラサルヘキヲ思ハシムルモノアリ

(ニ) 特許及設計審査會

航空ニ關スル特許及設計審査會ハ一九二六年七月二日制定ノ陸軍航空團法ニ基キ設置セラル其ノ委員ハ陸海軍及商務省ノ各航空次官トス其ノ後一九二七年三月三日制定ノ合衆國法ニヨリ改正セラレタリ同法ニ依レハ同審査會ハ米國政府ニ提出セラレタル航空上ノ發明ノ評價及其ノ採用ノ可否ニ付國民航空諮問委員會ノ推薦ニ依ルモノヲ審査スヘキモノトス一九二八年度中國民諮問委員會ハ約千件ノ新設計ヲ受理シ内約二百件ヲ特許及設計審査會ノ審査ニ付シタリ且同審査會ノ審査ニ合格シタルモノハ百七十九ナリ

斯ク審査會ノ審査ニヨリ航空上ノ發明ヲ權威アラシムルト同時ニ政府ニ於テ之ヲ採用シ以テ一般航空上ノ發明ヲ保護獎勵スルノ方針ヲ採レリ

三、米國民間航空豫算

年次	内譯	金額	計	換算額 (一四三)
一九二二—二三	飛行郵便 N A C A	1,200,000 110,000	1,310,000	1,310,000



第五 伊太利

一九三〇—三一	一九二九—三〇	一九二八—二九	一九二七—二八	一九二六—二七	一九二五—二六	一九二四—二五	一九二三—二四
N A C A 商務省	N A C A 商務省	N A C A 商務省	N A C A 商務省	N A C A 商務省	N A C A 飛行郵便	N A C A 飛行郵便	N A C A 飛行郵便
一,三三二,〇〇〇	八九五,八三〇	一,二九二,二〇〇	六四一,六六二	六〇〇,〇〇〇	四,三六一,八五〇	五三三,〇〇〇	三,七九一,五〇〇
一〇,二四六,八三〇	七,六八五,八二〇	四,九六一,八五〇	五三三,〇〇〇	四,三〇四,五〇〇	二,六五〇,〇〇〇	五三三,〇〇〇	三,一六三,〇〇〇
二〇,八九一,〇六四	一五,六〇二,二二四	一〇,〇七二,五五五	八,七六八,一三五	六,四〇〇,八九〇	六,七八八,三三〇	六,五三六,六〇〇	三,六一九,四九〇

一、定期航空ニ關スル保護獎勵

(一) 航空會社ニ對スル一般的保護及監督

伊國政府ハ伊國ニ於ケル航空輸送會社ノ取締令ヲ發シテ保護及監督ニ關スル一般的基準ヲ定メ其ノ規定ニ從ヒテ各航空會社ト契約ヲ締結スルモノニシテ定期航空經營權ノ設定、補助金並補償金ノ支給方法及會社ノ各種ノ義務等ハ右契約中ニ規定セラルル今右取締令ノ概要ヲ記シ以テ會社契約ノ一般規定事項ヲ記シ政府カ航空會社ニ對シ如何ナル監督、補助及統制ヲ爲セルカヲ述ヘントス

航空輸送會社取締令ノ概要左ノ如シ

第一章 航空機材

第一條 航空機材ノ數―各會社ハ夫夫政府トノ契約ニ於テ定メラレアル航空機材ヲ整備スルニ非サレハ業務ヲ開始スルコトヲ得ス

第二條 航空機材ノ確認―契約所定ノ型種ナルコトヲ確認セラレ且堪航證明書ノ交付ヲ受クルコトヲ要ス

第三條 航空機材型種ノ變更―本件ニ就テハ豫メ航空省ノ認可ヲ必要トス

第四條 航空機ノ補充―航空機カ行方不明又ハ使用不可能ノ状態ニ陷レル場合ニハ其ノ都度航空省ノ同意スル期間内ニ之ヲ補充スルコトヲ要ス

第五條 航空機材ノ完成—一般航空工業界ノ發明又ハ其ノ應用ニ基ク改善若ハ新裝置ハ就役機ニ之ヲ應用スヘキモノトス

第六條 航空機ノ徵發—航空機ハ公共上大ナル必要アラハ關係法規ニ定ムル手續ヲ經テ徵發セラル
第七條 賃借—政府カ補助スル航空會社ニ屬スル航空機ハ特殊ノ場合ニ於テハ航空省之ヲ賃借スルコトヲ得右ノ場合ニ於テハ一定ノ方法ヲ以テ補償ス

第八條 戰時ノ場合—伊太利ト他國又ハ補助航路ノ一部ニ跨ル他國相互間ニ戰爭起リタル場合ニハ政府ハ左ノ處置ヲ執ル權能ヲ有ス

- イ、業務ノ中止
- ロ、繼續ノ要求
- ハ、航空機材所有權ノ掌握

右ノ場合ニ於テハ一定ノ方法ヲ以テ補償ス

第九條 保健—保健上ノ必要ニ基キ政府ハ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得

- イ、全部又ハ一部ノ中止
- ロ、線路及著陸場ノ變更又ハ廢止及時間ノ改正

第二章 郵便輸送

第一〇條 郵便物ノ受領—會社側ヨリ指定郵便局ニ赴キ之ヲ受領スヘシ

第一一條 郵便物ノ保管—會社ハ郵便物ヲ適當ナル場所ニ保管スヘキ義務ヲ負フ

第一二條 郵便物ノ輸送—郵便物ノ輸送ハ最モ迅速ニ爲シ且其ノ集配ハ所定時刻ニ實施スルコトヲ

要入

第一三條 郵便物定量ノ超過—輸送スヘキ郵便物ノ量カ契約所定ノ量ヲ超過スル場合ニ在リテハ其ノ超過分量ノ引受ヲ拒絕シ得尙輸送郵便物ノ定量ヲ超過スル場合頻發スルトキハ兩者間ニ於テ適

宜契約ノ變更ヲ商議スルモノトス

第一四條 郵便物ノ積卸及引渡—郵便物ノ積卸ハ全搭載物中第一ニ之ヲ爲シ會社ノ交通機關ヲ以テ所定郵便局ニ引渡スヘシ

第一五條 郵便物輸送ノ不實施、遲延及中止—理由ノ如何ヲ問ハス輸送郵便物ノ發送不可能ナルカ又ハ遲延スルトキハ速ニ受領シタル郵便局ニ返還スヘシ郵便物輸送カ飛行事故ノタメ途中ニ於テ停止セラレタル場合ニハ速ニ郵便物ヲ鐵道便ト爲スノ措置ヲ講スヘシ

第一六條 輸送狀況報告—會社ハ毎月末ニ「民間航空省及空中輸送部」並中央郵便局ニ對シ其ノ月内ニ於ケル郵便物ノ輸送成績ヲ報告スヘシ

第一七條 外國郵便物ノ輸送—航空省ノ承認ナク外國ノ負擔ニ於テ外國郵便物ノ輸送ヲ爲スヘカラ

第一八條 郵便所得—郵便輸送ニ依ル所得ハ總テ伊國遞信省ノ歳入トス

第一九條 郵便物輸送ニ關スル制限—遞信省ヨリ指定セラレタル郵便局ヨリ定期的ニ引渡サル物以外ノ航空輸送ヲ爲スコトヲ禁ス

第二〇條 會社業務上ノ通信—會社業務上ノ信書ハ之ヲ機上ニ携行シ得但シ遞信省ハ必要アルトキハ之ヲ檢閲スルコトヲ得

第二一條 郵便物ノ輸送ニ關スル會社ノ責任—郵便物ノ輸送ニ關シ會社ハ遞信省カ郵便物ノ差出人及名宛人ニ對シ國內及國際法規上負擔スル責任ト同様ノ責任ヲ負フヘシ

第三章 補償及補助

第二二條 籽補助—航空ノ中斷アリタル場合右中斷カ不可抗力ニ因ルトキハ實施セル飛行距離ニ應シテ補助ス

第二三條 經營費算定ノ基礎—本基礎ハ左ノ五項ヨリ成ル

イ、飛行費（燃料、潤滑油、消耗品、修繕、人員ニ要スル費用及之ニ準スルモノヲ含ム）

ロ、保險費

ハ、事務費（勤務指導員、飛行場事務所、郵便、電信、税金、出版、其他各種ノ支出及損失ニ關

スルモノヲ含ム）

ニ、飛行機材ノ更新、飛行場設備、會社建物ノ建設及増築ニ關スル費用

ホ、各種財政、會社資本ヲ構成スル株式及社債ニ關スル利子

第二四條 確認ニ關スル規定—會社ハ經營費確定ノ爲メ技術的資料及實施飛行距離確認ニ關スル統計資料ヲ提出スヘシ會社及航空省ノ各一名ノ代表者ハ立會ノ上之ヲ査定ス

第二五條 飛行機材ノ維持ニ關スル補助—航空省カ會社ニ對シ航空輸送業務用飛行機材ヲ十分ニ維持シ得ル様特別ノ補助ヲ爲ス

第二六條 郵便業務ノ補助—一定ノ清算法ニ基キ郵便業務ノ補助金ヲ支給ス之カ爲會社ハ航空省ニ對シ郵便物數ヲ記載セル關係原本一部ヲ送付スヘキモノトス

第二七條 補助及補償金ノ支拂—政府ハ所定ノ財政機關ヲ通シテ前記ノ金額支拂ヲ爲ス

第四章 航路、時間表及料金

第二八條 正規ノ航路及其ノ臨時變更—飛行機ハ其ノ航空日誌ニ付檢閲ヲ受ク不可抗力ニ依ルニ非サレハ所定ノ航路上ニ於テ指定セラレタル著陸場以外ノ地ニ著陸スヘカラス但シ航空省ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ航路ノ變更ヲ命スルコトヲ得

又會社ハ契約所定ノ最大限ノ補償額ヲ超過セサル範圍ニ於テ飛行回数ヲ増加スルコトヲ得

第二九條 發着時間表—發着時間表ハ毎月航空省ヨリ十五日以前ニ豫告ス 但シ本時間表ハ會社側ノ都合ニ依リ航空省ノ認可ヲ得テ修正スルコトヲ得

第三〇條 旅客料金—旅客料金ノ算定ハ原則トシテ左ノ諸項ニ基クモノトス

イ、鐵道旅客料金ヲ基礎トスヘシ

ロ、前項ノ基礎額ニ空中交通ノ迅速性ヨリ見積額ヲ増ス但シ本增加額ハ基礎額ノ一〇〇%ヲ超過スヘカラス

ハ、若シ會社カ都市中心地點ヨリ飛行場ニ至ル間ニ自動車輸送ヲ兼營スル場合ハ本區間ハ自動車輸送費トシテ正當ナル料金ヲ徵收スルコトヲ得

ニ、保險料ハ會社側ノ負擔トス

ホ、事務費

第三二條 特別料金—動物及貴重品ノ輸送料金ニ付テハ其ノ都度取極ムルモノトス

第三三條 料金ノ認可—前記料金ハ凡テ航空省ノ認可ヲ要ス

第五章 罰 則

第三四條 缺航ニ對スル制裁—不可抗力ニ基クコトカ證明セラレスシテ往航又ハ復航或ハ航路ノ一部ヲ缺航シタルトキハ一回ノ往航又ハ復航ニ對シ五百利、航路ノ一部ニ對シテハ其ノ距離ニ比例

シテ科料ヲ徵課ス

會社ノ過失又ハ不可抗力ノ合法的證明ナクシテ會社カ契約所定ノ最小飛行日數ヲ満足セシメサル場合ニ於テハ其ノ缺如日數ニ相當スル飛行回數ニ對シテ前項ノ倍率ノ違約金ヲ徵收ス

第三五條 時間表違背ニ對スル制限—合法的ニ證明セラルル不可抗力の遅延ノ場合ヲ除キ陸上機ニ在リテハ十五分、水上機ニ在リテハ二十分ノ遅著ニ對シ一時間二百利ノ割合ヲ以テ科料ヲ徵課ス

第三六條 降着不履行ニ對スル制裁—不可抗力ニ依ル場合又ハ航空省ノ承認アリタル場合ノ外所定ノ降著ヲ爲ササルトキハ各一回毎ニ三百利ヲ徵課ス

第三七條 郵便業務不履行ニ對スル制裁—郵便物ノ積載又ハ積卸ヲ爲ササル時ハ夫夫二百利ヲ徵課ス輕微ナル業務違反ニ付テハ其ノ性質ニ應シ最低五十利ヨリ最高二百利迄ヲ徵課ス

第三八條 審査—毎月末ニ會社ハ履行セサル郵便業務及其ノ理由(機上書類及航空日誌ヨリ轉載セル)ヲ記載セル報告書ヲ航空省ニ提出スヘシ

第三九條 制裁ノ實施法—前記制裁ハ會社側ノ證據書類ヲ添付セル民間航空及空中輸送部ノ提議ニ基キ航空大臣之ヲ裁決シ徵集金ハ國庫補助金支拂ノ際之ヲ控除ス

第六章 勤務員

第四〇條 勤務員ノ隸屬—空中及飛行場勤務員ハ會社ノ專屬タルヘキモノトス

第四一條 空中勤務員―各飛行機ノ乗員ハ現行航空規則ニ定ムル所ニ從ヒ構成スヘキモノトス

第四二條 飛行場勤務員―各飛行場ニ於テハ發着、操縦ヲ統制スル目的ヲ以テ一名ノ飛行場主任ヲ定ムヘシ

第四三條 評議委員會―評議委員會ハ伊國又ハ外國ニ居住スル伊國臣民タル株主中ヨリ任命セラレ會社ノ社長及主ナル役員ノ任命ハ委員會及政府ノ承認ヲ經テ之ヲ爲ス

第四四條 專務及常務取締役―前條ニ同シ

第七章 旅客ノ義務

第四五條 旅客ノ遵守スヘキ規則―會社ハ左記事項ヨリ成ル旅客ノ遵守スヘキ規則ヲ告知スヘシ

イ、旅客ハ現行法規ヲ遵守スヘシ

ロ、航空省ハ特別許可ナクシテ無線電信電話機ヲ機上ニ携行スルコトヲ禁ス

ハ、軍用爆發物、兵器及彈藥ヲ輸送スヘカラス

ニ、寫真機械ノ輸送及航空中ニ於ケル其ノ使用ハ特別規則ニヨリ之ヲ取締ル

ホ、領空内ヲ航空スル飛行機ト雖モ税關ノ監視ヲ受ク

ヘ、己ムヲ得サル場合ノ外航空中ニ於テ機上ヨリ有害物ヲ投棄スヘカラス之ヲ投棄シタルトキハ之カ爲ニ生シタル損害ヲ賠償セシム

ト、旅客輸送機ノ司令ハ船長ト同様ノ職權ヲ有ス

チ、積荷明細書ニ記載スヘキ事項

リ、旅客輸送機ハ旅客名簿ヲ備付ケ之ニ旅客ノ姓名住所ヲ記入スヘシ

ヌ、荷物及發送者ノ注意スヘキ事項

第八章 經營權委任期間

第四六條 委任期間ノ決定―委任期間ハ省令ヲ以テ公布セラレヘキ業務開始當日ヨリ始マル

第四七條 委任解除―委任ハ前條ノ期日ヨリ起算セラレ契約期間滿了ノ日ニ解除セラレ

第四八條 契約ノ失効―航空省ハ參議院ノ同意ニ依リ左記ノ場合ニハ契約ヲ取消シ且之カ失効ヲ告知ス

(一) 契約ヲ取消シ得ル場合

イ、不可抗力ニ依ラス會社ノ怠慢過失ニヨリ經營ヲ拋棄シ又ハ中止シタル場合

(一) 右ノ場合ニハ先ツ業務再開ノ爲ニ若干ノ猶豫期間ヲ附シテ警告ヲ爲ス

(二) 所定猶豫期間内ニ業務ヲ再開セス又ハ再開スルモ更ニ中止スルトキハ航空省ハ參議院ノ諮詢ヲ經テ會社ヨリ定期航空業務經營ニ關係アル人員、器材其ノ他一切ノ物ヲ監理又ハ沒收シタル上自ラ經營スルコト又ハ他ノ航空會社ヲシテ經營ヲ代行セシムルコトヲ得

ロ、重大ナル業務上ノ不行届ニ付テモ亦同シ

(二) 契約ヲ直ニ取消シ得ル場合

- イ、會社カ名目上伊太利人ノ經營トナリ居ルニ過キサルモノナル場合
- ロ、會社カ航空省ノ承認ヲ經スシテ他國ノ爲メノ業務ヲ行ヒタルトキ
- ハ、所定期間内ニ保證金ヲ納入セス又ハ政府カ課スルコトアルヘキ科料ヲ納付セサルトキ
- ニ、會社カ航空省ノ認可ヲ受ケスシテ他國ト經營上ノ契約ヲ締結シタルトキ
- ホ、不可抗力ノ舉證ヲ爲スコトナク航空輸送業務ヲ拋棄シタル場合
- ヘ、重大ナル業務上ノ不行届カ確認セラレタルトキ
- ト、會社カ所定ノ方法ニ依リ所定ノ期間内ニ所定ノ資本増加ヲ爲ササルトキ

第四九條 委任期間滿了後ノ不動産處分―委任期間中會社側カ建設セル航空業務附屬不動産カ國有地上ニ在ルトキハ契約滿期ト同時ニ右不動産ハ國有トナリ會社所有地上ニ在ルトキハ其ノ建設ノ爲メ國家カ補助セル金額ト全建設費トノ割合ニ應シテ其ノ一部ヲ國有トス

第九章 一般規定

第五〇條 一般監督―航空輸送業務ノ一般監督ハ「民間航空及空中輸送部」ヲ通シテ航空省之ヲ行フ監督又ハ検査ニ従事スル官吏ハ會社ノ如何ナル施設ヲモ検査スルコトヲ得又之カ爲ノ輸送ハ無料

トス航空回数及航空状態ニ付承認ヲ受クル爲會社ハ航空日誌ニ基ク所要資料ヲ提出スヘシ

第五一條 保證金ノ目的及之ヲ沒收セラルル場合―契約成立後若干日内ニ保證金ヲ「貯金及貸付局」

ニ供託スヘシ右保證金ハ所定猶豫期間内ニ飛行業務ヲ開始セサルトキハ之ヲ沒收ス

第五二條 休日ヲ定ム

(二) 航空會社ニ對スル補助金支給方法及航空會社ノ現況

伊國政府ハ前記航空輸送會社取締令ニ定メタル範圍内ニ於テ各航空會社ト契約ヲ締結シ以テ之ニ補助金ヲ支給セルカ今主要各航空會社トノ契約内容ヲ記シ其ノ支給補助金額及支給方法ヲ示サム

(一) 伊太利航空速達會社 (Societa Anonima Aero Espresso Italiana)

一九二四年七月政府ハ伊太利、希臘、土耳其間ノ飛行艇ニ依ル航空路開設ニ關シ伊太利航空速達會社ト協定ヲ爲シ一九二六年ヨリ「プリンデイジ」―雅典―君府線ヲ經營シタルカ一九二九年ニ於テハ旅客千二百五十六人、貨物四萬三千九百六十一疋、郵便物三千二百十八疋ヲ輸送セリ
本會社ノ契約内容左ノ如シ

(イ) 會社ノ組織

伊太利政府トノ間ニ定期航空線路經營ニ關スル協定ヲ爲シタル伊太利航空速達會社ハ羅馬ニ事務所ヲ置ク資本金百萬利ノ會社ニシテ事業經營期間ヲ十ケ年トシ創立認可後三ヶ月以内ニ資本金ヲ

千萬利ニ増資スヘク資本金ノ三分ノ二ハ伊太利人ヨリ募集シ社長及取締役ノ三分ノ二ハ伊太利人ナルコトヲ要ス

(ロ) 政府補助金及政府ノ優先權

政府ハ會社豫定經營費總額ノ六割ニ相當スル金額ノ補助ヲ與フルモノナルカ右ハ實施飛行距離一籽ニ付十六利ニ相當ス而シテ最初ノ三ヶ年間ノ補助金ハ事業經營費ノ七割五分迄之ヲ増額シ最後ノ三ヶ年分ハ四割五分ニ之ヲ減額シ平均六割トナル如ク定メタリ政府ハ一週二回ノ飛行ヲ爲サシメ一年間ニ五千疋迄ノ郵便物ヲ無料ニテ輸送セシムルコトヲ得尙政府ハ會社ノ爲ニ一年最低一萬疋ノ貨物ヲ保障シ其ノ輸送料百萬利ヲ四期ニ分チテ支給ス但シ政府貨物ハ一般貨物ヨリ優先輸送セラルヘク官吏ニハ所定旅客料金ノ三割引トシ政府貨物ト同様ニ優先權ヲ與フヘシ

尙政府ハ會社ヲシテ會社航空班ノ五割ヲ動員シ得ル様準備セシムル代價トシテ之カ維持費年額八十萬利ヲ支給ス又政府ハ契約期間中「プリンデイズ」ニ於テ必要ナル土地建物及材料ヲ無償ニテ貸與シ且飛行場設置ニ付テハ外國政府トノ交渉ヲ援助ス

(ハ) 會社ノ保證及讓渡權

會社ハ其ノ義務履行ノ擔保トシテ十萬利ヲ供託シ後日之ヲ三十萬利ニ増加スルコトヲ要ス又會社ハ營業權ヲ既設伊太利會社ニ讓渡スルコトヲ得但シ航空總監ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

(一) 伊太利航空會社 (Societa Italiana Servizi Aerea)

伊太利航空會社ハ伊國政府ノ援助ノ下ニ公稱資本百萬利ヲ以テ設立セラレ一九二六年四月以來「トリエスト」「ベニス」「バヴァリア」「トリノ」間及「ベニス」「トリエスト」「ザラ」間ノ航空線路ヲ經營シタルカ一九二九年ニ於テハ之等ノ線路「アンコーナ」迄延長シ旅客六千九百八十四人、貨物十五萬八千疋、郵便物九千九百五十三疋ヲ輸送セリ

伊太利政府ハ同社ニ對シ補助金ヲ支給スル外租稅免除ノ特典ヲ與ヘ居レルカ契約ノ概要左ノ如シ

(イ) 補助金

飛行距離一籽ニ對シ補助金一一、四四利ヲ支給ス但シ年三十二萬八千籽ノ飛行ヲ補助シ得ル金額ヲ以テ最大限度トス

(ロ) 郵便飛行補助金

郵便飛行ニ付毎年五十萬利以内ノ補助金ヲ支給ス會社ハ毎年二萬八千五百疋以内ノ郵便物ヲ輸送スヘキ義務ヲ負フ

輸送シタル郵便物二萬八千五百疋ヲ超過シタル場合ニハ特別補助金トシテ輸送量一疋毎ニ國內郵便物ニ付一五利、外國郵便物ニ付二五利ヲ支給ス

(ハ) 租稅ノ免除

政府ハ同會社ニ對シ關稅、通行稅、「ガソリン」及滑油消費稅、印紙稅ノ免除並書留手數料ノ免除ヲ爲ス

(三) 航空匿名會社 (Societa Anonima Navigazione Aerea)

航空匿名會社ハ公稱資本金四百萬利ヲ以テ設立セラレ一九二六年始メヨリ羅馬―「ゼノア」―「バルセロナ」間ノ定期航空ニ從事シ一九二九年ニハ羅馬―「パレルモ」間、羅馬―「トリポリ」間ノ航空ニ從事シ旅客四千四十二人、貨物七萬八百八十疋、郵便物二萬三千三百疋ヲ輸送セリ

(イ) 補助金

飛行距離一籽ニ付最初四ヶ年ハ十四利、次ノ三ヶ年ハ十三利、次ノ三ヶ年ハ十二利ヲ支給シ何レモ六十四萬籽ノ飛行ヲ補助シ得ル金額ヲ以テ限度トス

(ロ) 郵便飛行補助金

郵便飛行ニ付年三十萬利以内ノ補助金ヲ支給ス

會社ハ毎年二百五十疋ノ郵便物ヲ輸送スヘキ義務ヲ負フ尙右義務ヲ超ユル數量ヲ輸送シタル場合ニハ特別補助金トシテ一疋毎ニ國內郵便物ニ付一五利、外國郵便物ニ付二五利ヲ支給ス

(ハ) 會社ノ特別義務

會社ハ左補助金ヲ受クル代價トシテ官吏ニハ所定旅客料金ノ五割ヲ割引シ廢兵及飛行團體、飛行

協會等ノ職員ニハ同様ニ一割ノ割引ヲ爲スヘキ義務ヲ負フ

(四) 「トランスアドリアチカ」會社 (Societa Anonima Transadriatica)

「メデイテラネア」會社 (Societa Aerea Mediterranea)

「アヴィオ、リオーネ」會社 (Societa Anonima Avio Linee Italiane)

「アドリア、アイレオ、ロイド」會社 (Societa Anonima Adria Aereo Lloyd)

此等ノ會社ハ一九二六年以來創設セラレタルモノニシテ政府トノ補助契約ハ前記三會社ト大同少異ナリ「トランスアドリアチカ」會社ハ一九二九年ニ於テハ羅馬―維納線及「ヴェニス」―「ブリンデイジ」線ヲ經營シ旅客三千六百七十二人、貨物八萬二千七百七十八疋、郵便物一萬一千二百疋ヲ輸送セリ

「メデイテラネア」會社ハ一九二九年ニ於テハ羅馬―「カイアリ」線、「ブリンデイジ」―「ヴァロナ」線、羅馬―「チユニス」線ヲ經營シ旅客三千四百六十三人、貨物五萬三千二百八十五疋、郵便物一萬一千二百疋ヲ輸送セリ

「アヴィオ、リオーネ」會社ハ一九二九年ニ於テハ羅馬―「ミラノ」―「ボルザノ」線、「ミラノ」―「リミニ」線、「ミラノ」―「トリノ」線ヲ經營シ旅客二千六百六十九人、貨物二萬二千七百六十一疋、郵便物五百七十一疋ヲ輸送セリ

「アドリア、アイレオ、ロイド」會社ハ一九二九年ニ於テハ「アルバニア」國ニ數多ノ航空線路ヲ經營シ旅

客二千九百四十八人、貨物二萬五千八百五十一疋、郵便物二千六百五十疋ヲ輸送セリ

二、航空工業ニ關スル保護獎勵

伊國政府ハ飛行機發動機乃至附屬品ノ國産化ヲ「モットー」トシ航空工業ノ發達ヲ圖リ凡ユル援助ヲ惜マサリシカ今ヤ漸ク其ノ目的ヲ達シ特殊ノ者ヲ除キ完全ニ獨立自營シ得ルニ至レリ就中「デ、ビネード」大佐カ歐米連絡飛行ニ使用シタル「サボイヤ」55型飛行艇並「デ、ベルナルヂ」少佐カ一九二六年度「シユナイダー」杯戰ニ優勝シタル「マツキ」水上機ノ如キハ何レモ伊國製航空機ノ勝利ヲ意味スルモノナリ又政府ハ自國航空工業ノ今後ノ發展ヲ期センカ爲ニハ航空機及航空機發動機等ノ海外ニ於ケル販路ヲ開拓擴張スルコト極メテ重要ナリトシ機會アル毎ニ飛行家團體等ヲ海外各方面ニ派遣シ以テ自國航空機ノ宣傳ニ努メタルハ周知ノコトナリ爾來引續キ製作工業ノ國際競争上必要ナル各種ノ援助ト便宜トヲ供與スルコトニ最善ノ努力ヲ爲シツツアリ

三、民間航空乘員養成ニ關スル保護獎勵

(一) 民間飛行學校ニ對スル補助

國家有事ノ際ニ於ケル民間操縦者ノ地位ノ甚タ重要ナルコトニ鑑ミ民間飛行學校ヲシテ克ク其ノ使命ヲ果サシメンカ爲之カ援助ヲ爲スコトニ決定シ一九二九年度豫算ニ於テモ二千五百萬利ノ補助金ヲ計上セリ

(二) 輕飛行機俱樂部

「ミラノ」輕飛行機俱樂部ハ王室飛行俱樂部ノ援助ノ下ニ一九二七年八月創立セラルル目的トスル所ハ英國ノ夫ト等シク主トシテ航空思想ノ普及及操縦者ノ養成ニ在リ

伊國政府ハ之カ保護獎勵ヲ圖リ設備費トシテ二十萬利ヲ支給スル外維持並消耗品費トシテ二ケ年間毎年十萬利ヲ支給シ尙民間操縦士ノ免狀ヲ受クル者一人ニ付一萬三千利ヲ支給スルコトトセリ
同俱樂部ノ成績ハ一九二八年二月ニ於テ會員七十二名ヲ有シ其ノ半ケ年ニ於ケル飛行回數ハ二千九百五回、飛行時間ハ四百四十九時間ナリキ

四、各種航空團體ニ關スル保護獎勵

伊國國民航空協會

伊國政府ハ民間航空事業ノ發達ヲ促進スル爲一九二三年度ニ於テ伊太利國內ニ於ケル各種ノ航空團體ヲ結合シテ國民航空協會ヲ組織セシメ政府ハ之ヲ極力援助スルコトト爲シタリ同協會ノ主要ナル目的左ノ如シ

- (イ) 一切ノ航空活動ノ聯絡協同ヲ爲サシメ且之ヲ監督指導スルコト
- (ロ) 「ファスシスト」ノ精神ニ則リ飛行家ヲ團結セシムルコト
- (ハ) 航空ニ關スル勞働者ノ生活ニ必要ナル報酬其ノ他ノ條件ヲ保障スルコト

第六 露 西 亞

(ニ) 航空技術及航空機工業ノ發達ヲ促進スルコト
 (ホ) 航空思想ノ普及ニ努ムルコト
 (ヘ) 航空監督官廳トノ連絡ヲ圖ルコト
 (ト) 内外ニ於ケル航空輸送事業ヲ經營スルコト
 航空省ハ右航空協會補助金並飛行會開催費、宣傳費、競技費トシテ一九二九年度航空豫算中ニ二百五十萬利ヲ計上セリ

五、伊國民間航空豫算

年 度	金 額	邦 貨 換 算 額
一九二三年	一、〇〇〇、〇〇〇 <small>利</small>	三八、七一〇 <small>(利三八・七二錢)</small>
一九二四年	七、〇〇〇、〇〇〇	二七〇、九七〇
一九二五年	一三、八二五、〇〇〇	五三五、一六五
一九二六年	三一、〇三〇、〇〇〇	一、二〇一、一七一
一九二七年	三五、八三〇、〇〇〇	三九四、一三〇 <small>(利一・二錢)</small>
一九二八年	四九、八三〇、〇〇〇	五四八、一三〇
一九二九年	六八、〇〇〇、〇〇〇	七四八、〇〇〇

露國ハ前記ノ諸國ト國家組織ヲ異ニシ國家自體直接生産ニ從事シ居ルモノナルヲ以テ他ノ諸國ニ見ルカ如ク民間航空企業ニ對スル政府ノ保護獎勵策ヲ明確ニ指摘スルコト能ハス依テ今茲ニ單ニ各種航空團體ノ設立經過及其ノ事業ノ概要ヲ記スニ止ム

一 露國政府ノ民間航空團體設立援助

露國政府ハ夙ニ緩漫ナル交通ハ隣接歐洲諸國トノ外交關係ニ多大ノ損失ヲ招クコトヲ慮リ時間ヲ節約スルコト多大ニシテ經費ヲ要スルコト比較的僅少ナル空中交通ニ依リ此ノ缺點ヲ除去セムト欲シ先ツ第一ニ普通ノ交通機關ヲ以テセハ百十時間ヲ要スル「モスコ」¹、伯林間ノ行程ヲ航空機ニ依リテ迅速ニ交通セムト欲シ一九二一年ノ夏駐露國商務官ト獨逸ニ於ケル銀行家、航空輸送業者等ヨリ成ル獨逸航空聯合會關係者間ニ於テ露獨間空中交通ノ爲獨露航空協會(Der Luft)設立ニ關スル商議ヲ進メ同年秋ニ於テ同協會ノ基礎トナルヘキ定款ニ當時入民委員會會長タリシ「レニン」氏ノ署名ヲ見ルニ至レリ然レトモ實際「モスコ」―「ゲーニヒスベルヒ」線ノ定期航空ノ開始ヲ見タルハ一九二二年五月一日ノコトニシテ同線路ハ露國郵便電信委員會ノ援助ニ依リ主トシテ外交文書及郵便物ヲ僅ニ一週ニ往復ノ航空ヲ以テ輸送シタルニ過キス

翌一九二三年ニ及ヒ航空友愛會(La Société des Amis de la Flotte Aérienne)「ドブロリョ」協會(Dobrolet)及「ウクライナ」航空協會(Witrozboukhport)ノ三航空團體ノ創設ヲ見タリ然シテ航空友愛會ノ目的

トスル所ハ航空ニ關シ専ラ學術及經濟的方面ニ於テ研究及援助ヲ爲スモノニシテ之ニ反シ「ドブロリヨト」協會及「クライナ」航空協會ノ目的トスル所ハ主トシテ定期航空ニ在リタリ

航空友愛會ノ目的ハ人民委員會會長ニシテ且航空友愛會長タル「ルイコフ」氏ノ同會ノ目的ニ關シ宣言シタル所ニ依レハ「露國ニ於ケル航空ニ關スル學術及經濟ノ發達ニ關スル最モ重大ナル問題ヲ官僚的ナル方法ニ依ルコトナク自由ニ加入シタル多數ノ人民ノ創造力ヲ以テ審議實行スルコトニ在リ」ト然シテ同協會ノ會員ハ數年ナラスシテ百萬人ヲ突破スルニ至レリ

「ドブロリヨト」協會ハ一九二三年ニ於テ「モスコ」―「ニジニ、ノブゴロド」―「カザン」線、「ヤルタ」―「セバストポール」線、「セバストポール」―「ウバトリヤ」線及「タシケント」―「アルマ、アタ」―「ブカラ」―「キバ」線ノ定期航空ヲ開始シ「ウクライナ」航空協會モ亦同年「ウクライナ」地方ニ數線ノ航空路ヲ開設セリ

露國政府ハ「ドブロリヨト」協會及「ウライナ」航空協會ノ資本ノ組織、右協會ニ對スル各種ノ要求事項、改革ヲ要スル航空諸問題及一般航空ニ關スル諸般ノ問題ノ輻輳スルニ及ヒ經濟、學術、商業及對外政策的方面ニ關スル緊要ナル要求ヲ満足セシムル爲民間航空發展計畫ヲ確立スルコトノ必要ヲ認メ一九二三年夏ニ至リ一切ノ露國版圖内ニ於ケル民間航空ノ發展ニ關スル審議ヲ爲シ航空線路ノ經營ヲ管理シ且一般民間航空ニ關スル諸般ノ事務ノ監督ヲ任トスル露國民間航空委員會ヲ創設シタリ右民間航空委員會ハ

同年秋ニ於テ左ノ計畫ヲ樹立セリ

一 時間ヲ節約スルコト多大ニシテ且其ノ最モ緊要缺クヘカラスト認ムル國內地方ニ於ケル航空線路設置ニ要スル基礎的施設

二 對外的商業及外交政策上必要缺クヘカラスト認ムル國際航空線路ノ設置及延長
尙前記航空友愛會ハ其ノ後化學協會ト合同シテ「オン、アビアヒム」協會 (Ozovviahime) トナリ曩ノ航空友愛會ノ業務ヲ繼承シ専ラ一般公衆ニ對シ航空思想ヲ鼓吹シ且國家經濟的見地ニ於テ航空界ニ技術的寄與ヲ與フルコトトセリ

二 「オン、アビアヒム」協會

「オン、アビアヒム」協會ハ勞農赤軍ニ直接協力シテ赤軍ノ戰鬥力ヲ増進シ國防事業ニ物質的援助ヲ與ヘ文化ノ程度低キ階級ニ航空科學教育ヲ施シ以テ智能ヲ啓發スルヲ其ノ任務ト爲ス

本協會ノ民間航空ニ關スル方面ニ於テハ各地方ニ飛行協會ヲ設立シ航空ニ關係アル諸事業及航空輸送事業ニ關スル資料ヲ蒐集シテ航空展覽會ヲ開催シ又模型滑空機競會ヲ催シテ國民ニ航空思想ヲ普及セシムル外害蟲驅除等ノ航空利用事業ニ從事シ居レリ

而シテ一九二九年十月ニ於ケル航空事業關係ニ於ケル現況左ノ如シ

飛行俱樂部

四

飛行機研究班	三五〇
航空競技班	一、〇五〇
民間飛行學校	四
發動機工科	九
氣象觀測科	二
其ノ他ノ航空科	一二
飛行場	五
常備飛行機	一〇五
氣球學校	二

次ニ本協會ノ組織ニ關シ「オソ、アビアヒム」航空化學隊ニ關スル規則ヲ掲クレハ左ノ如シ

「オソ、アビアヒム」航空化學隊ニ關スル規則

一 總 則

- (一)「オソ、アビアヒム」航空化學隊トハ空中化學攻撃ニ對シ國民ヲ防護スル目的ヲ以テ編成セラレ定メラレタル規定ニヨリ専門的研究ヲナシ且一般軍紀ニ基キ本規則ニ依リ其ノ職責ヲ遂行スル「オソ、アビアヒム」會員ノ一團ナリ

- (二)「オソ、アビアヒム」會員タルノ資格ヲ有スル國民ハ總テ航空化學隊ニ入隊スルコトヲ得從テ入隊者ハ其ノ入隊ト同時ニ自ラ「オソ、アビアヒム」會員トナルモノトス
- (三)航空化學隊ノ建設及準備ハ「オソ、アビアヒム」ノ空中化學攻撃ニ對スル國民自衛計畫ノ基礎業務ナリ
- (四)航空化學隊ノ任務左ノ如シ
 - (イ)大衆ヲシテ航空化學隊ニ於ケル研究ニ興味ヲ持タシタメ且其ノ研究ヲ援助シ以テ住民地ノ自衛ヲ爲ス
 - (ロ)有力ナル空中化學的國土防衛ノ建設ニ關シ軍部及民間官廳ニ協カス
 - (ハ)平時ニ於ケル有利事業(有害物防禦等)ヲ實施ス
- (五)航空化學隊ハ其ノ任務上左記事項ヲ管掌ス
 - (イ)空中化學攻撃及防禦ノ方法手段ヲ研究ス
 - (ロ)空中化學防禦法ノ運用ニ習熟ス
 - (ハ)住民ヲシテ空中化學防禦問題ニ趣味ヲ持タシメ且廣ク勞農者間ニ化學及航空智識ヲ普及セシム
 - (ニ)「オソ、アビアヒム」地方機關ノ實施スル防禦演習ニ參加ス
 - (ホ)軍部及民間官廳ノ指示ニ依リ其ノ空中化學防禦ノ實施ニ參加ス

- (へ) 平時ニ於ケル有利事業ニ關スル所要ノ知識ヲ涵養シ且之ニ習熟シ特ニ毒殺物ニ依ル有害蟲獸防禦手段ヲ研究シ以テ之カ運用ニ慣熟ス
- (六) 航空化學隊ハ空中化學上危險最モ大ナル國境地方ヲ始トシテ「ソヴェト」社會主義共和國聯邦ノ全領域ニ互リ設置セラル而シテ平時ニ於テハ防禦ノ基礎任務ヲ完全ニ遵守シ以テ有利事業ニ全力ヲ傾注ス

二 編制

- (七) 航空化學隊ハ大細胞(ヤチェイカ)(實業的企業等)若ハ「オソ、アビアヒム」ノ「ソヴェト」(會議)即チ郡、地區、市「ソヴェト」ニ附屬シテ編成セラル
- (八) 國民ハ住民地若ハ職業別ニ航空化學隊ニ入隊ス
- (九) 航空化學隊ハ住民地ヲ地形ニ應シ現在ノ行政區分、被護物體、防護組織ノ便等ニ適應スル如ク防禦地區ニ區分ス
- (十) 各防禦地區内ニ編成スヘキ航空化學隊ノ數ハ住民ノ疎密及該地區並該地區内ニ在ル防禦物體ノ價值(政治的、經濟的、行政的)ニ依リテ決定セラル
- (十一) 航空化學隊ハ各種空中化學防禦勤務ヲ統一スル爲完成セラレタル機關ナリ從テ其ノ編成ニハ左ノ役員ヲ有ス

(イ) 空中監視、通報及連絡班

(ロ) 化學班

(ハ) 消防及保安班

(ニ) 衛生班及豫備隊

(三) 航空化學隊ノ人員ハ常置員(幹部)及交替員ニ區分ス常置員ハ隊長、同補佐官(豫備隊長)、四班長及器材掛ヨリ成リ交替員ハ爾餘ノ隊員及總豫備隊トス

(三) 交替員ノ人員ハ「オソ、アビアヒム」地方機關(市、地區若ハ之ニ相當スル機關)之ヲ決定ス隊ノ基礎教育終了者ハ總テ豫備員ニ編入セラル

(四) 各航空化學隊ニハ當該住民地及該隊ヲ編成スル「オソ、アビアヒム」細胞ノ名稱並リ聯邦「オソ、アビアヒム」航空課ノ附與スル番號ヲ附ス

三 補充

(五) 航空化學部隊ノ人員ハ自由應募制ニ依リ補充ス

(六) 十六歳以上ノ國民ハ男女共應募スルコトヲ得

(七) 常置員ハ航空化學隊幹部ノ課程(「アビアヒム」教官ノ課程モ同シ)終了者中ヨリ「オソ、アビアヒム」支部長之ヲ推薦シ「オソ、アビアヒム」支部會ニ依リ決定ス

(六) 交替員ノ補充ハ定期ニ行フ從テ各班ニ於ケル教育ヲ終了スルヤ交替員ハ豫備隊ニ編入セラレ各班ニハ新應募者入班ス

四 教育

(一) 充當置員ノ教育ハソ聯邦「オン、アビアヒム」ノ計畫ニ依リ航空化學隊幹部學校ニ於テ實施ス隊長及同代理ノ爲補修科ヲ設ク

(二) 幹部學校ハ縣(管區)以上ノ「オン、アビアヒム」毎ニ設置セラル

(三) 交替員ノ教育ハ基礎教育及勤務演習召集ヨリ成ル

(四) 基礎教育ハ航空化學隊ノ各關係班ニ於テソ聯邦「オン、アビアヒム」ノ計畫ニ基キ實施ス

(五) 勤務演習召集ハ航空化學隊員カ豫備隊ニ編入セラレシ以後ニ施行セラル

召集ハ一定期間飛行練習期ニ於テシ航空化學防禦問題ヲ實地ニ研究ス

(六) 基礎教育科目及演習召集ノ期間ハソ聯邦「オン、アビアヒム」ノ設定セル計畫ニ基キ其ノ他ノ狀況ニ應シ教育成績ヲ最良好ナラシムル如ク其ノ地ノ「オン、アビアヒム」機關(市若ハ之ニ準スル「オン、アビアヒム」機關)之ヲ決定ス

(七) 平時ノ有利事業ニ服務スヘキ特種部隊要員ハ其ノ外ニ専門課程ノ實地教育(有害蟲獸防禦用器材ノ使用法等)ヲ修習ス

(八) 航空化學隊及其ノ豫備員ハ「オン、アビアヒム」地方機關ノ主宰スル各種研究ニ屢々參加セシメラル是等ノ研究ハ或ハ一般軍隊消防隊等ト聯合シテ實施シ或ハ一個若クハ數個ノ航空化學隊ヲ以テスル特種編成ヲ以テス

五 平時ノ有利事業

(一) 航空化學隊ハ其ノ一部ヲ以テ平時ノ有利事業實施ノ爲特種部隊ヲ編成ス

(二) 此ノ特種部隊ハ其ノ地ノ「オン、アビアヒム」ニ特種部隊員ヲ教育シ且其ノ動作ヲ指導シ得ルニ足ル

理論並實際的教育アル者ヲ有スル場合ニ限り編成セラルルモノトス

(三) 平時ノ有利事業實施隊ハ「航空化學隊平時有利事業規則」ト稱スル特種ノ規定ヲ基礎トシテ編成セラレ事業ヲ實施ス

有害蟲獸ニ對スル防禦ハ村落經濟課ノ計畫及技術的指導ノ下ニ之ヲ實施ス

六 隊員ノ權利及義務

(一) 航空化學隊員ノ權利左ノ如シ

(二) 航空化學隊ノ記章ヲ佩用ス

(三) 本規則第八ニ示シアル制服ヲ着用ス

(四) 他ノ「オン、アビアヒム」會員ニ優先シテ航空化學隊幹部學校へ派遣セラル(學校派遣ノ爲ノ諸條

件ヲ満足セシムル場合)

(三) 航空化學隊員ハ左ノ義務ヲ有ス

- (イ) 軍紀ヲ守リ幹部ヨリ課セララル研究業務及問題ヲ誠實ニ履行ス
 - (ロ) 班ノ勤務ヲ正規ニ修習シ又豫備員タルトキハ各期ノ航空化學隊勤務演習召集ニ應召ス
 - (ハ) 展覽會、「デモンストレーション」其ノ他各種ノ大衆事業ニ参加ス
 - (ニ) 對瓦斯及教育用材料器材ヲ慎重ニ取扱フコト
- (三) 幹部ノ任務左ノ如シ
- (イ) 自己隸屬部隊ノ交替員ノ教育ヲ指導ス(豫備隊又ハ班)
 - (ロ) 自己擔當區域ノ空中化學防禦ノ實施ヲ指導ス
 - (ハ) 地方「オソ、アピアヒム」ノ指令ニ依リ平時ノ有利事業ヲ計畫ス
 - (ニ) 自己部隊ノ教育ニ要スル總テノモノノ保障ニ就キ配慮ス
 - (ホ) 隊ノ展覽會若ハ他ノ機關(軍隊其ノ他)ト聯合スル展覽會及其ノ他「デモンストレーション」等各種ノ大衆事業ニ参加ノ爲交替員ヲ召集ス
- (三) 第三十二項ニ示サレシモノノ外ニ各幹部ハ左ノ任務ヲ有ス
- (イ) 航空化學隊長ハ各班長豫備隊長及器材掛ノ業務ヲ指導ス

(ロ) 隊長補佐官ハ班教育ヲ終了セシ交替員ヲ監督ス

(ハ) 班長ハ班ノ器材保管ヲ監督ス

(三) 器材掛ノ任務左ノ如シ

- (イ) 關係條規ニ依リ特種器材及教育器材ヲ保管シ且之カ出納ヲ掌ル
 - (ロ) 航空化學隊用ノ器材ヲ受領シ之ヲ各班及豫備隊ニ交付シ且各班ヨリ返納スル器材ヲ受納ス
 - (ハ) 航空化學隊長ノ指令ニ依リ不良器材ヲ修理シ廢品器材ヲ賣却ス
- (三) 航空化學隊長ハ地方「オソ、アピアヒム」會長ニ隸屬ス
- 常置員ハ隊長ニ直屬シ又交替員ハ關係班長及豫備隊長ノ下ニアリテ隊長ニ隸屬ス

七 經理

(三) 航空化學隊ノ經理ハ支出及左記收入ヨリ成ル

- (イ) 「オソ、アピアヒム」地方機關ヨリスルモノ
- (ロ) 航空化學隊ヲ編成シアル細胞ヨリスルモノ
- (ハ) 航空化學隊ニ物質的援助ヲ與フル所ノ地方機關(黨機關、職業機關、會議機關及經濟機關)ヨリスルモノ
- (ニ) 其他ノ資源ヨリスルモノ

(三) 器材ノ保障ハ左ノ方法ニ依ル

(イ) 中央「オソ、アビアヒム」ハ「オソ、アビアヒム」補給部ヲ經テ之ヲ實施シ又「オソ、アビアヒム」ノ他ノ下級機關ニ依リ實施ス

(ロ) 第三十六項(ロ)ニ示セル地方機關ニ依リ行フ

(ハ) 第三十六項ニ依リ航空化學隊ノ得ル收入ヲ以テスル器材ニ依ル

(ニ) 航空化學隊ノ器材ノ保管修理ハ第六ニ示セシ如ク現行規則ニ基キ且常置員ノ責任ヲ以テ實施ス

(元) 經費及器材支出ノ決算ハ一九二七年三月二日附ソ聯邦「オソ、アビアヒム」達第二八、七四五號ノ指令ニ基キ實施ス

八 制服

(四) 航空化學隊交替員用トシテ左記制服ヲ制定ス

(イ) 航空化學隊ノ記章(胸章)

(ロ) 幅十糎ノ隊號ヲ附シタル黃色ノ臂章

(ハ) 制服(帽子及服)ハ各地方「オソ、アビアヒム」毎ニ各其ノ地ノ航空化學隊ノモノヲ制定ス

(四) 幹部ハ交替員ノ爲ニ制定セラレシ制服ニ左ノ制章ヲ附加ス

(イ) 臂章ニ幅半糎ノ黒線ヲ附ス

(ロ) 左ノ區分ニ從ヒ幅一種、長サ七糎ノ赤色帶ヲ臂章ノ上部ニ縫着ク

隊	長	三線
同	補佐官	二線
班	長	一線

器材掛ハ黒線ノミヲ附ス

(四) 制服ハ左ノ規定ニ從ヒ著用ス

(イ) 航空化學隊ノ記章ハ左胸ニ佩用ス、隊員ハ總テ隊、豫備隊ノ編成内ニ在ル間常ニ佩用スルコトヲ得

(ロ) 臂章ハ左肘ノ上部ニ附シ航空化學隊カ勤務中(教育、演習、閱兵、遠足等)ニ在ル場合及隊カ特種任務ニ服スルニ方リ著用ス

三 「ドプロリョト」協會

本協會ハ一九二三年ノ創設ニ係リ主トシテ航空輸送業務ニ從來シ資本金五百萬金留ヲ擁スル株式組織ヨリ成ル然シテ其ノ株主ハ各種國家機關、商業團體及多數ノ人民ニシテ其ノ額面額ハ僅ニ一留ニ過キス本協 ハ最初定期市ノ開催期間中「モスコ」、「ニジニ、ノブゴロト」間ノ航空線路ヲ經營シタルカ其ノ後「ソヴェト」露國民間航空委員會ヨリ三箇年間ノ露國版圖内ニ於ケル航空運送ニ關スル許可ヲ受クル

ニ及ヒ「モスコト」―「ニジニ、ノブゴロド」―「カザン」線、「ヤルタ」―「セバストポール」―「ユバトリア」線ノ經營ヲ廢シ近代の交通機關ノ全ク缺除シ居ル地方ニシテ航空線路ヲ以テセハ經濟的及學術的方面ニ於テ大ナル寄與ヲ爲スモノト認メラルル露國邊境地方ニ其ノ勢力ヲ集中シ中央亞細亞地方ニ於ケル航空線路即チ「ブカラ」―「キバ」―「タシヤウス」線、「ブカラ」―「テルメツ」―「デウシヤンベ」線及中部西伯利ニ於ケル航空線路即チ「ウエルフネウジンスタ」―「ウルガ」線ヲ開設セリ一九二八年露國政府ハ聯邦航空會議ヲ開催シ航空五箇年計畫ヲ樹テタルカ本協會ハ右計畫ニ基キ一九二九年ニ於テ實施スヘキ左ノ事業計畫ヲ樹テタリ

- (一) 航空線路ヲ五、八〇〇軒乃至一二、〇〇〇軒ニ延長スルコト
- (二) 現在ノ西部歐洲ニ於ケル航空線路組織ニ於ケル如ク地上設備ノ完成ニ努ムルコト
- (三) 夜間飛行ヲ實施スルコト
- (四) 定期航空ノ飛行距離ヲ年二百五十萬軒ニ達セシメ旅客六千五百人、貨物十一萬噸、郵便物六萬噸ヲ運送スルコト
- (五) 「ベーリング」海調査隊ヲ援助スルコト
- (六) 蝗害驅除ノ爲三萬「ヘクター」ノ地域ニ驅除藥ヲ撒布スルコト
- (七) 三萬平方軒ニ亘ル地域ノ航空測量ヲ爲スコト

(八) 各種ノ産業ニ航空機ヲ利用スル方法ヲ研究スルコト

(九) 前記諸事項ヲ實施スルニ當リテハ露國製飛行機及發動機ヲ使用シ外國製ヲ使用スルコトハ出來得ル限り之ヲ避クルコト

斯クテ一九二九年以降左ノ航空線路ヲ經營セリ

(一) 「モスコト」―「イルクーツク」線

此ノ線ハ本國ヨリ極東ニ至ル計畫航空線路ノ一部ニシテ「モスコト」ニ於テ「デルフト」協會ノ伯林、「モスコト」線ニ連絡シ一部ノ區間ニ夜間飛行ヲ實施シ居レリ

(二) 「イルクーツク」―「ヤクーツク」線

此ノ線路ハ一九二九年一月開設セラレタルモノニシテ水上飛行機ヲ使用シ冬期ヲ除キ每週二往復ヲ以テ經營セラル

(三) 「ウエルフネウジンスタ」―「庫倫線」

此ノ線路ハ將來ノ「イルクーツク」―「北平線」ノ一部タルモノニシテ每週二往復ヲ以テ經營セラル

(四) 「トルキスタン」地方航空線

本協會ハ「トルキスタン」地方ニ於ケル多數ノ航空線路ノ經營ニ從事セリ此等航空線路ニ於テ每週一往復乃至四往復ノ定期航空行ハル

(五)「ハバロフスク」―「オハ」線

此ノ線路ハ一九三〇年一月毎週一往復ヲ以テ開設セラレ本國、極東間航空線路ノ一支線タルモノニシテ「ハバロフスク」ニ於テ分岐シ將來ハ「カムチャツカ」ヲ經テ北米ニ向ケ延長セララルモノナリ

(六)「モスコ」―「バクト」線

此ノ線路ハ一九二九年迄ニハ「ウクライナ」航空協會ノ經營ニ係リシモノナルモ一九三〇年一月本協會カ「ウクライナ」航空協會ヲ合併シタル結果其ノ經營ヲ繼承セルニ至レルモノナリ

(七)「モスコ」―「タシユケント」線

此ノ線路ハ一九三〇年六月新設セラレタルモノナリ

(八)「アルハンゲリスク」―「スルクツイフカル」線

地ノ線路ハ最近新設セラレタルモノナリ

本協會ノ輸送成績左ノ如シ

年次	飛行總距離	旅客	貨物	郵便物
一九二三年	四、三六 ^里	三九 ^人	一九六 ^担	一八五 ^担
一九二四年	一六、七五〇	六三	七五七 ^担	一九二四

一九二五年	二九、五七七	一、五四九	一四、五〇九	三、二七四
一九二六年	五三、五四	二、二九	三、八九一	一六、一五二
一九二七年	七三、六四	三、三〇六	七、六三二	三、四二五

本協會ノ第二義的業務ノ一ハ空中寫眞測量ニシテ寫眞測量ヲ開始シタルハ近々一九二五年ニ過キサレモ一九二五年ニ於テハ九百平方糎、一九二六年ニ於テハ六千平方糎、一九二七年ニ於テハ一萬五千七百平方糎、一九二八年ニ於テハ二萬平方糎又一九二九年ニ於テハ三萬二千五百平方糎ノ地積ヲ撮影セリ而シテ此等ノ空中測量ハ中央統計局ノ爲又ハ棉花委員會本部ノ要求ニ依リ之ヲ行ヒタルモノニシテ尙「トルキスタン」地方ニ於ケル鐵道線路敷設ノ爲測量ニ從事セリ

本協會ノ第二義的業務ノ二ハ飛行機ヲ以テスル田畑及森林ノ害蟲驅除ニシテ始メ一九二五年ヨリ主トシテ蝗害豫防ノ爲驅除藥ヲ撤布セリ即チ一九二五年ニ於テハ千「ヘクタール」(一「ヘクタール」ハ約我一町步)ノ地積ニ、一九二六年ニハ一萬「ヘクタール」ノ地積ニ又一九二七年ニハ三萬六百「ヘクタール」ノ地積ニ藥劑ヲ撤布セリ一九二八年ニ於テハ一九二七年ニ比シ其ノ驅除ヲ爲シタル地積減少シタルカ右ハ既往數年間ニ於ケル之等作業ノ效果顯著ニシテ一九二八年ニ於テハ蝗害ヲ蒙リタル地積ノ著シク減少シタルコトニ因ル飛行機ヲ以テ之ノ作業ヲ行フトキハ其ノ費用著シク低廉ニシテ一「ヘクタール」ノ地積ニ

藥劑ヲ撤布スルニ要シタル費用一九二六年ニ於テ五留四十九哥、一九二七年ニ於テ三留九十五哥ナリキ然ルニ馬ヲ用ヒテ之ヲ行フトキハ「ヘクタール」ノ地積ニ付二十四留乃至三十留ヲ要シ又他方時間ニ於テ飛行機一機ハ馬ヲ用フル場合ノ八十倍ノ能率ヲ有ス

本協會ハ尙又數年來其ノ飛行機ヲ以テ極地地方ニ於ケル狩獵業ノ指導ニ從事シ居レリ

四 「ウクライナ」航空協會

本協會ハ一九二三年三月ノ創立ニ係リ資本金二百萬留ヲ有シ一九二九年迄「モスコ」―「ハリコフ」―「ロストフ」―「チホレッツカヤ」―「ソーチ」―「スフウム」―「チフリス」―「バク」線ノ經營ニ從事シタリシモ一九三〇年一月「ドプロロリヨト」協會ニ合併セラレタリ

五 「デルフト」協會

「デルフト」協會即チ獨露航空協會ハ一九二一年ノ創設ニ係リ翌一九二二年五月一日ニ至リ初メテ「モスコ」―「ケ」ニヒスベルヒ」線ニ於テ毎週二往復ノ定期航空ヲ開始セリ

本協會ハ株式組織ニシテ創立當時三十萬馬克ノ資本金ヲ有シタリシモ一九二六年右資本金ハ百三十萬馬克ニ増資セラレ其ノ株ハ露國政府及獨逸「ルフトハンザ」航空會社ニ於テ半々ニ所有セラル本協會々長ハ駐獨露國主席商務官ニシテ「モスコ」及柏林ニ其ノ事務所ヲ有ス

爾來右航空線路ハ「ケ」ニヒスベルヒ」ヨリ柏林迄延長セラレ二千斤ニ達スルニ至リ尙又其ノ航空回數

ハ増加セラレテ毎日一往復ノ航空ヲ實施スルニ至レリ

一九二八年以降「モスコ」―「スモレンスク」―「リガ」―「ケ」ニヒスベルヒ」―柏林線及「レニングラー」―「レヴァル」―「リガ」線ヲ經營シ毎年五月十五日ヨリ十月十五日迄六箇月間「ドルニエ、メルキユール」型飛行機ヲ使用シテ毎日一往復ノ定期航空ヲ爲ス

尙本協會ハ「モスコ」―柏林間ニ氣象通信網ヲ構成シ約三十ノ氣象局ヲ建設シ「ケ」ニヒスベルヒ」、柏林間ニハ無線電信局ヲ設置シ一九二八年ニハ其ノ所有ニ係ル全部ノ航空機ニ對シ無線通信機ヲ裝置セリ本協會ノ航空成績左ノ如シ

年	次	飛行距離	旅	客	貨	物	郵便	物
一九二二年		一四、〇〇〇		三六		一八、二〇〇		一、〇四八
一九二三年		二〇、〇〇〇		三四		二〇、一四〇		一、五八八
一九二四年		三四、〇〇〇		三九		二六、八一六		三、三九〇
一九二五年		四七、〇〇〇		一、三三		三七、五四三		五、四四〇
一九二六年		五〇、〇〇〇		一、〇八		三九、六〇〇		一〇、七三三
一九二七年		六四、〇〇〇		一、八〇九		三九、〇三三		二四、六一九

第七和 蘭

一九二八年	七三,000	二五二〇	四九,六三六	二七,九三三
一九二九年	八六,000	二六九二	六〇,〇一五	一六,七一一

露國航空輸送會社各年別輸送統計

年次	飛行總距離	旅	客	貨物及郵便物
一九二四年	五四,〇〇〇 <small>軒</small>		二六八 <small>人</small>	四八,〇〇〇 <small>噸</small>
一九二五年	八九四,〇〇〇		三,三九六	七六,〇〇〇
一九二六年	一三三,一三〇		四,〇三五	八四,五六一
一九二七年	一九〇,三一一		七,六九二	一七〇,三六一
一九二八年	二,三七七,九三〇		八,九六六	三,八六,六一

一 K、L、M 會社ノ創立及政府ノ補助政策

和蘭 K、L、M 會社ハ一九一九年十月七日大銀行、商事會社及運輸會社等ノ參加ニ依リ創立セラレタリ其ノ當初ノ資本金ハ一、〇一五、〇〇〇「フロリッソ」ナリシカ一九二五年一、五二三、〇〇〇「フロリッソ」ニ増資セラレタリ

一九二七年ニ於テ舊株ノ額面價格ハ四割ニ切下ケラレ新ニ資金調達セラレタリ其ノ總額ハ六、二五三、二〇〇「フロリッソ」ニシテ内五〇〇、〇〇〇「フロリッソ」ハ和蘭政府ヨリノ應募金ナリキ

和蘭政府ハ此ノ種ノ會社カ其ノ創立當初ニ於テハ到底利益ヲ擧ケ得ル見込ナキヲ認メ一方ニ於テハ飛行場、無線電信及氣象通報ノ利用ヲ自由ナラシムルト共ニ他方ニ於テハ補助金ヲ支給シ以テ或ル一定ノ限度迄ノ損失額ノ三分ノ二ヲ補填スルコトトセリ即チ一九二〇年、一九二一年及一九二二年度ニ於テ夫々一二〇、〇〇〇「フロリッソ」三三〇、〇〇〇「フロリッソ」三二五、〇〇〇「フロリッソ」ヲ支給シタリ

一九二三年ニ至リ政府ハ一九二六年ニ至ル四ケ年ノ期間ニ於テ更ニ補助金ヲ支給スルコトニ決定セリ即チ一九二三年及一九二四年兩年度ニ於テ夫々四〇〇、〇〇〇「フロリッソ」又一九二五年及一九二六年兩年度ニ於テ夫々三〇〇、〇〇〇「フロリッソ」ヲ支給セリ一九二七年一月一日七ケ年期限ノ新契約締結セラレ會社ハ七年ニ亘リ分割遞減的ニ總額二、八〇〇、〇〇〇「フロリッソ」ノ補助金ノ支給ヲ受クル事トナレリ

二 K、L、M 會社事業ノ發達

K、L、M 會社ノ實際ノ輸送事業ハ一九二〇年五月十七日ヲ以テ開始セラレタリ最初ノ航空線路ハ「阿姆斯特ダム」—倫敦線ナリキ此ノ線ハ一九二〇年—二一年、一九二一年—二二年ノ冬期間停止セラレタルカ爾來一年ヲ通シテ繼續經營セラレ居レリ次テ漢堡、伯林、「ブラツセル」、巴里、「コペンハーゲン」、「マルメ」ニ至ル航空線路ヲ開設セリ

一九二九年ニ於テハ會社ハ單獨經營線路トシテ唯倫敦線及「ブラツセル」—巴里線ヲ有スルニ過キサリキ殘餘ノ諸線ハ何レモ外國航空會社ト共同シテ之ヲ經營セリ即チ漢堡線ハ獨逸「ルフト、ハンザ」會社、「コペンハーゲン」—「マルメ」線ハ瑞典、A、B 會社、「バーゼル」—「チューリッヒ」線ハ瑞典「バレール」會社トノ共同經營ニ係レリ

一九二〇年當時ノ歐洲ニ於ケル航空輸送會社ノ大部分ハ軍用飛行機ノ改造セルモノヲ使用シテ輸送ニ從事シタリシカ獨リK、L、M 會社ノミ商用飛行機ヲ以テセント全力ヲ盡シ一九二〇年末以來「阿姆斯特ダム」所在「フォツカー」航空機製作會社ノ製作ニ係ル飛行機ヲ使用シ來レリ會社ハ又各飛行機ヲ充分ニ運用シテ飛行機數ヲ能フ限リ少カラシメ輸送ニ適セサルニ至レルモノハ速カニ之ヲ賣却スルコトヲ主義トセリ依テ會社ハ嚴密ナル機體檢査ヲ行フト共ニ修繕工場ヲ完備シ各飛行機ノ活動時間ヲ延長セシムル事ヲ得タルヲ以テ一九二二年度ニ於ケル一噸籽當ノ營業費四、七四「フローリン」ハ一九二七年ニ至リ

テハ一、二「フローリン」ニ減少スルニ至レリ

設立當時會社ハ己ムヲ得ス英國又ハ獨逸ノ操縦士ヲ雇入レ僅ニ二名ノ和蘭人操縦士ヲ有シタルニ過キサリシモ一九二二年以來陸續トシテ自國人ヲ増員シ一九二三年ニ於テハ僅ニ一名ノ外國人操縦士アリタルニ過キサリキ

今左ニ會社事業ノ發展ノ跡ヲ表示セハ左ノ如シ

(一) 一九二〇年乃至一九二八年輸送統計

年次	飛行總距離	輸送旅客數	輸送貨物量	輸送郵便物量
一九二〇年	八、八一〇 <small>籽</small>	三四五 <small>人</small>	二、九六三 <small>籽</small>	二、九六三 <small>籽</small>
一九二一年	四四六、三〇〇	一、六六四	三六、九〇八	一、五四八
一九二二年	二二七、〇〇〇	一、四一四	九〇、五三二	三、七七一
一九二三年	四〇五、六五五	三、九三七	一六六、二八八	九、〇〇一
一九二四年	七二八、〇六五	三、六四八	一四六、六五〇	一三、一三七
一九二五年	八九九、七九五	五、七二九	二三五、四七一	九、一四六
一九二六年	八九四、六八二	六、二七五	二三五、二四四	八、三六八

一九二七年	1,107,150	1,282,6	401,939	35,196
一九二八年	1,623,353	1,712,5	687,932	35,089

(二) 一九二九年輸送統計

線路	飛行總距離	輸送旅客數	輸送郵便物量	輸送貨物量	實施率
「阿姆斯特ルダム」—「倫敦」	六六七,八六九 <small>噸</small>	二,六四六,二四六 <small>人</small>	一四,〇八三,六三四 <small>噸</small>	一四八,五二四,八九三 <small>噸</small>	九一四%
「阿姆斯特ルダム」—「巴里」	四四一,九五六	一,八七一,六〇四	三,〇四三,三四一	九八,八三三,二四九	九二九
「阿姆斯特ルダム」—「マルメー」	四二,三五二	三〇〇,一七二	四,〇一八,一四四	一三,六九七,八七〇	九一九
同右 夜間飛行	一四,八八五	一,三三三,六二四	二,一五四,七七	四〇,七四九,〇〇六	九九
「ロッテルダム」—「伯林」	二二,二六〇	三〇三,一五〇	一,四八九,三〇五	七,五三四,二四五	一〇〇
「阿姆斯特ルダム」—「漢堡」	七五,九四五	二,四三,三五五	四七,八九二〇	九,九二四,七五五	九六二
「阿姆斯特ルダム」—「チューリッヒ」	七七,〇六二	三〇八,二四八	三,九七九,七四八	九,九七〇,五九	一〇〇
合計	一,五九二,三三八	七,〇〇七,三九九	三六,八四七,八一九	三八,二三五,五五七	

三 和蘭東印度航空輸送會社(K、N、I、L、M)

K、N、I、L、M會社ハ和蘭K、L、M會社ノ姉妹會社ニシテ一九二八年ニ創立セラレ同年十二月一日ヲ以テ「ジャヴァ」及「スマトラ」兩島ニ於テ航空輸送事業ヲ開始シタリ當時ノ使用機ハ「アイムストロング、シドレー、リンクス」發動機三基付「フォツカー」型四機ナリキ而シテ此等ノ四機ハ事業開始ニ先チ「ジャヴァ」島所在「バンドン」ニ向ケ和蘭本國ヨリ空輸セラレタルモノニシテ其ノ後六ヶ月ヲ經テ同型ノ一機空輸セラレタリサレハK、N、I、L、M會社ハ現在五機ノ輸送機ヲ所有シ居レリ

現在ノ經營線路ヲ擧クレハ左ノ如シ

- (一) 「バタヴィア」—「バンドン」 (一二〇) 隔日一回
- (二) 「バタヴィア」—「スマラン」—「スラバヤ」 (六七〇) 毎日一回
- (三) 「バタヴィア」—「トレクベトン」—「バレムバン」 (五八五) 毎週一回
- (四) 「バレムバン」—「ムントロク」—「新嘉坡」 (五八〇) 毎週一回

第四線ハ第三線ノ延長トシテ一九三〇年初ヨリ經營セラレタルモノナリ而シテ右ノ大陸連絡航空路ハ將來印度ヲ經テ歐洲大陸迄延長セラルヘク同時ニ又新嘉坡ヲ出テ「マラツカ」海峽ヲ渡リ「スマトラ」島ノ北端ナル「ザバンク」ニ至ル線開設セラルヘシ本線ハ更ニ「ザバンク」ヨリ陸上ヲ經テ「バレムバン」ニ至ルヘク茲ニ「ストラ」島縦斷線完成スヘシ而シテ英ノ一部タル「バタヴィア」—「メダン」線ハ既ニ飛行開始セラレタリ

最初ノ會計年度ニ於テ本會社ハ二、三〇〇人ノ旅客ヲ輸送シタルカ事故トシテハ唯不時着陸ノ際一機體ノ僅ニ損傷シタルコトアリタルノミナリ尙飛行實施率ノ一〇〇%ナルハ天候不變ノ同地方ニ於テハ氣象狀態ニ影響セラルルカ如キコト殆ト皆無ナルヲ以テナルヘシ

數ヶ月ニ亘リ英國政府トノ間ニ折衝ヲ重ネタル結果和蘭政府ハ一九三〇年九月以降印度ヲ通過シテ歐洲大陸、蘭領東印度間ノ定期飛行開始ニ關スル承諾ヲ得タリ本連絡航空ノ豫定線路左ノ如シ

「アムステルダム」―「ニユルンベルク」―「ブタペスト」―「ブシール」―「ペンダー、アバス」―「カラチ」―「ジョドプール」―「アラハバット」―「カルカッタ」―「蘭貢―盤谷」―「シンゴラ」―「新嘉坡」

使用機ハ三發動機付「フオッカー」機ニシテ當分毎月一回飛行シ全線ヲ約十日乃至十二日ヲ以テ翔破スルモノノ如シ

和蘭政府ハ又「バタヴィア」―「スラバヤ」線ヲ「ズンダ」海峡及「チモール」海ヲ横斷シテ濠洲ノ「ポート、ダ」―「ヴィン」迄延長セントシテ努力セリ然レトモ當初有望視セラレタル交渉モ遂ニ挫折シ濠洲政府ハ一九三〇年六月右航空路設定計畫ニ對シテハ當分許可ヲ與ヘサル方針ナル旨和蘭政府ニ通牒シタリト謂フ

第八白耳義

一 S、A、B、E、N、A 會社ノ創立及政府ノ補助政策

一九一九年航空研究組合ナルモノ主ナル銀行團ノ支持ニ依リ設立セラレタリ本組合ハ其ノ後株式會社ニ其ノ組織ヲ變更セラルルニ及ヒ航空輸送事業ニ大ナル興味ヲ感シ一九二三年迄其ノ實際的研究ニ從事シ一九二三年五月二十三日ニ至リ遂ニS、A、B、E、N、A 會社ノ設立ヲ見タリ

此ノ會社設立當初ノ資本金ハ六、〇〇〇、〇〇〇白法ナリシカ一九二七年一〇、〇〇〇、〇〇〇白法、一九二九年ニハ更ニ二〇、〇〇〇、〇〇〇白法ニ増額セラレタリ而シテ其ノ資本金ノ五割ハ前記航空研究組合ニ依リ所有セラレ殘餘ノ五割ハ白耳義政府及殖民地政府ノ所有スル所ナリ

航空研究組合ノ創立當初ヨリ政府ハ之カ補助政策ヲ採リ一九二〇年度ノ民間航空豫算トシテ九、九四五、〇〇〇白法ヲ計上シ内六、〇〇〇、〇〇〇白法ハ航空路施設、一、〇〇〇、〇〇〇白法ハ民間航空輸送ノ創設補助ニ充當スルコトト爲シタルカ結局之ヲ同組合ニ支給シタリ又一九二一年及一九二二年兩年度ニ於テハ民間航空保護獎勵費トシテ一〇、〇〇〇、〇〇〇白法ヲ計上シ内三、〇〇〇、〇〇〇白法ヲ定期航空補助金ニ充當シタルカ之ハ(一)飛行時間及飛行距離ヲ基礎トスル償却及飛行補助金(二)總收入ニ對スル旅客貨物ノ輸送補助金ニ區別セラレタリ

一九二三年即チS、A、B、E、N、A 會社創立ノ年ヨリ政府ハ同會社ニ向フ五ヶ年間歐洲及「コンゴ」地方ノ航空線路ニ對シテ補助金ヲ支給スルコトニ決定シ一九二三年度ニ於テ二、一四〇、〇〇〇白

法、一九二四年乃至二七年度ニ於テハ毎年三、一〇〇、〇〇〇白法ヲ補助金支給最高額トシテ計上セリ一
 九二八年ニ至リ「コンゴ」地方ニ於ケル定期航空ハ異常ナル發達ヲ遂ケ殆ト自立性ヲ獲得スルニ及ヒ政
 府ハ専ラ歐洲航空線路ニ對シテノミ補助金ヲ支給スルコトニ決定シ一九二八年度以降五ケ年間毎年六、
 三〇〇、〇〇〇白法ノ補助金支給最高額ヲ計上セリ
 右補助契約ハ一九二九年政府ノ財政状態ノ好況ニ向ヒタル時ニ於テ更改セラレ其ノ期間ハ九ケ年トナリ
 補助金年額モ増額セラレ總額二三〇、〇〇〇、〇〇〇白法トナレリ而シテ歐洲航空線路ニ於テ會社ニ依リ
 確保セラルヘキ噸籽數左ノ如シ

一九二九年	七八五、〇〇〇 ^{噸籽}
一九三〇年	一、七六〇、〇〇〇
一九三一年	一、八二六、〇〇〇
一九三二年	一、八六九、〇〇〇
一九三三年	一、八七九、〇〇〇

一方殖民地政府ハ同地方ニ於テ定期航空ニ從事スル飛行機ノ積載量ノ八割ヲ保證シ又將來開始セラルヘ
 キ白耳義本國及「コンゴ」地方間ノ定期航空ニ關シテハ白耳義政府及「コンゴ」政府ハ共ニ飛行機ノ全
 積載量ヲ保證スルコトニ決定セリ

二 S、A、B、E、N、A 會社事業ノ發達

一九二〇年乃至一九二三年ノ最初ノ期間中航空究研組合ハ歐洲ニ於テ左ノ諸線ヲ經營シタリ

- (一) 「ブラッセル」―倫敦線
英國「ハンドレ、ベーチ」會社ト共同
- (二) 「ブラッセル」―巴里線
佛國航空運送會社ト共同
- (三) 「ブラッセル」―アムステルダム線
和蘭K、L、M會社ト共同

而シテ「コンゴ」地方ニ於テハ「レオポルドヴィル」―「スタンレイヴィル」線不定期的ニ經營セラレタリ
 一九二三年乃至一九二八年ノ第三期ニ於テS、A、B、E、N、A會社ハ左ノ諸線ヲ經營セリ

- (一) 一九二三年、一九二四年及一九二五年
「アムステルダム」―「ロッテルダム」―「ブラッセル」―「バーゼル」線
- (二) 一九二六年及一九二七年(夏季ノミ)
「ブラッセル」―倫敦線
- (三) 一九二八年

倫敦—「ブラッセル」—「ケルン」線

又「コンゴ」地方ニ於テハ「カタンガト」エリサベスヴィル」ヲ可及的速ニ連絡スルコトニ努力シ左ニ示スカ如ク逐年其ノ航空線路ヲ延長セリ

- (一) 一九二五年六月「レオポルドヴィル」—「リュエボ」線
- (二) 一九二六年二月「リュエボ」—「ヌグレ」線
- (三) 一九二六年五月「レオポルドヴィル」—「ボマ」線
- (四) 一九二七年五月「ヌ、グレ」—「エリサベスヴィル」線

次テ又左ノ諸線ノ開設ヲ見タリ

- (一) 一九二七年十二月「リュエボ」—「チカボ」線
- (二) 一九二八年三月「ルエアブルグ」—「ラササンボ」線(一九二九年一月「カバロ」迄延長セラレタリ)
- (三) 一九二八年五月「ブランドドウ」—「コキルアットヴィル」線

斯クシテ「コンゴ」地方ニ於ケルS、A、B、E、N、A會社ノ航空線路ノ全延長ハ一九二九年一月ニ於テ三、五六〇軒ニ達スルニ至レリ

左ニ輸送統計ヲ掲ケ同會社事業ノ發展ノ跡ヲ示サム

(一) 歐洲線

年	次	飛行總距離	輸送旅客數	輸送貨物量	輸送郵便物量
一九二三年	年	一一〇、五五 _軒	三六 _人	三七、二九 _軒	一四〇二八
一九二四年	年	二七、一九二	一、七九	一六、四六	一〇、九六七
一九二五年	年	三三、八四四	四、四〇〇	七、二七	一〇、九六七
一九二六年	年	一四、九六〇	三、六〇二	六、八六九	一四二
一九二七年	年	二九、〇二二	五、一六七	四〇、七七一	三九
一九二八年	年	三六、二七六	七、八六四	一〇、五三三	三、一七一
一九二九年	年	五九、九三七	三、七六	三九、一七〇	八、四三二

(二) 「コンゴ」線

年	次	飛行總距離	輸送旅客數	輸送貨物量	輸送郵便物量
一九二五年	年	五、三六〇 _軒	三八 _人	二四、一四七 _軒	
一九二六年	年	一五、〇〇〇	六九〇	四、七六六	輸送貨物量ニ含ム

一九二七年
一九二八年
一九二九年

一八七,八〇〇
二五四,五六〇
二七〇,二六四

六五〇
一九九
一,二八一

五,〇九七
四四,五五〇
九,一〇二

一一六

二天,七九六

14₄
996

終

